京城日報
十三日夕刊 (朝夕刊併せて一部)
本紙定價 廣告料金
發行所 京城太平町通一丁目 京城日報社 電話

◎帝國軍艦派遣

海軍省發表＝浦鹽在留邦人保護の爲め軍艦を派遣せり(東京特電)

▲浦鹽へ遣艦理由

海軍省小林[illegible]副官の談に曰く浦鹽に帝國軍艦を派遣せる理由は現在浦鹽危險なりと云ふに非ざるも目下の處國情に鑑み何時如何なる事の出來するやも保す可からず殊に同地は我國と密接の關係あり且つ在留邦人も他國居留民に比し多數を示し居れば萬一の場合之が保護の任に當る爲め適當の處置を執るものにて派遣の軍艦は一隻にて其艦名乘組員等は秘密なるも軍艦は既に某軍港を拔錨し浦鹽へ到着せり更らに他の軍艦を派遣するや否やは今のところ[illegible]合に立ち到るや否や[illegible]限りに非ず(東京特電)

◎獨參謀總次長辭任

保守、國民自由黨外相の辭職を主張す

チューリッヒ來電＝獨逸參謀總長ヒンデンブルグ元帥及び同次長ルーデンドルフ將軍は伯林に於ける御前會議に於て政府當局と意見衝突の結果遂に辭表を提出したり保守黨及び國民自由黨側領袖は將軍に加擔し却て外相キュールマン男の辭職を主張しつゝあり其の言ふ處に依れば同男はブレストリトウスクに於ける講和會議の際甘んじて墺匈國外相ツェルニン伯の傀儡となれりと云ふにあり同男の位置は今や極めて不安なり(倫敦電報)

◎獨總司令官任命

獨逸フオン、ウオクルシユ元帥は近く行はる可き西部戰線に於ける獨軍の大攻撃を機とし獨軍總司令官に任命さる可し(倫敦電報)

◎兩外相講和陳述

アムステルダム來電＝本月十日ブレストリトウスクに於て講和委員全部出席せる會議の席上に於て獨逸外相キュールマン男は講和交渉の經過を報告して曰く『故障發生したる爲め四國同盟側と急速に講和を締結せんとする露國の誠意に關し疑惑を生じたり』と又墺國外相ツェルニン伯は曰く『交渉の問題は一般的講和に非ず露國との單獨講和交渉地を中立國の領土内に移さんか丹は協商國に對し其希望通り干渉の機會を與ふる事となる可し』と(倫敦電報)

◎保管金交附要求

聯合國大使は露西亞帝國銀行の保管せる自國に屬する金員約五百萬圓の交附をトロツキー氏に向つて要求する處ありしがトロツキー氏は之を拒絶せり尚ほ佛國大使は過激派政府に向ひ佛國銀行及び里昂銀行支店の横奪に對して抗議を申し込めり(哈爾賓電報)

◎婦人參政權可決

英國上院は六十一票對百三十四票の多數を以て婦人參政權法案を可決せり(倫敦電報)

◎徳川書記官著發

徳川北京公使館附書記官は十三日午前十時來安一泊の上十四日午前十時發北京に向へり(安東特電)

◎柿内專務通過

鮮業銀行專務取締役柿内常次郎氏は十三日午前十時半安東通過北京へ直行せり(安東特電)

◎特別任用令改正

朝鮮總督府令第五號を以て朝鮮總督府地方廳官吏特別任用令中左の通り改正朝[illegible]日施行の旨公布されたり

第一條 朝鮮總督府道府々尹は五年以上朝鮮總督府又は朝鮮總督府道府郡島若くは警察官署の事務に從事し現に其の職にあり判任官一級俸以上の俸給を受くる者の中より文官高等試驗委員の銓衡を經て特に任用することを得

第二條 朝鮮總督府道事務官は五年以上朝鮮總督府又は朝鮮總督府道郡若は島の事務に從事し現に其の職に在り判任官四級俸以上の俸給を受くる者の中より文官高等試驗委員の銓衡を經て特に之を任用することを得

第三條 朝鮮總督府郡守及び島司は五年以上朝鮮總督府又は朝鮮總督府道郡島又は警察官署の事務に從事し現に其職に在り判任官四級俸以上の俸給を受くる者の中より文官高等試驗委員の銓衡を經て特に之を任用することを得

□王世子殿下御入京順序

十三日午後九時南大門驛御着の李王世子殿下奉迎の次第は豫報の如くなるが當夜は混雜を防ぐ爲め十三日朝同所裁の如き順序にて一般奉迎者の位置を定め其の諸列せる前を殿下の御一行は李堈公殿下其他の隨員と共に長谷川總督、山縣政務總監並に奉迎御挨拶ある筈なり其の順序は左の如し

(一)プラットフォーム特別待合室通路より列車に向ひ左側は朝鮮貴族、陸軍將校(佐官以上)内人愛國婦人會役員、民間代表者新聞記者

(二)同右側は勅任文武官、外國領事、奏任文官、李王職員、判任官以上)赤十字社職員及特別社員

(三)一般奉迎者は驛前より南大門に至る道路に整列するものとす尚當日奉迎者の服裝はフロックコート又は同相當服に限り貴賓室廊下に名刺受付所を設けあれば同所に各自の名刺を差出すべしとなり斯くて殿下御一行は馬車にて南大門驛發午後九時三十分德壽宮に御着あるべき筈なるが是より先き李王同妃殿下は昌德宮御出門德壽宮にて王世子殿下の來着を待受けられ咸寧殿にて李太王、李王、王妃、王世子各殿下の御對顏あり茶菓を參らせ何れも問安の御挨拶あり其れより三獻の盃を擧げて御健康を祝され右了つて午後十一時李王同妃殿下は昌德宮に御歸宮相成り是と同時に世子殿下は李太王殿下の御居間に蹴らるゝと共に初めて御宿所なる石造殿に赴かれ長途の御疲れを御休めあらるべき御豫定なりと承はる

◎露國情改善の一策

浦鹽は物資缺乏の狀無し

西伯利亞歸客談

來るべき露國の憲法會議は法律[illegible]い、之れに對して過激派は如何なる態度を執るであらうか、選擧區から選出された代表者も過日の新聞に出[illegible]心は出來まい、者を二百八十名とか記してあつたが、或は被選者中過激派の者[illegible]怯ねて代表者たるを肯んじない者がある爲めに、定數の八百名が

▲二百八十名に減じたのかも知れない、兎もあれ眞に國事を憂ふる者は斷つて出席するであらうし、過激派はまた過激派で議院を包圍せしむる位のことは行りさうにも思はれる、萬一[illegible]

[illegible]

▲内地人約四千

朝鮮人[illegible]の日本人は[illegible]四千人であるが、[illegible]

▲カレヂン將軍

在るのみ而かもカ將軍は頼むべき將來を有するやにも見ゆるけれども、現狀では、過激派政府を顛覆するだけの力は無い、さすれば聯合國は過激派政府を認めなければ露國を代表して國際關係を折衝する對手が無いじやないか、故に過激派政府を承認して、而して彼に單獨講和だの、外債踏付けだの背信行爲が有つたならば正々堂々之を責むるが宜しい、承認は與へないか、義務は負はしむるといふのではいかゝ[illegible]少々辻褄が合はない、此際聯合國が思ひ切つて承認を與へ萬事に

▲斷乎たる決心

を示したならば露國の國情も案外早く改善されるかも計られない、露本國の形勢が變化すれば、善くも惡くも極東は其影響を受けるのは勿論で最近最も邦人に懸念されつゝある政狀の浦鹽の如きも本國に於ける政狀の[illegible]

[illegible]

◎朝鮮の耕地面積

四百八十八萬町歩＝豫定より六割以上の增加

土地調査局總務課長 和田一郎氏談

▲土地調査の效果

朝鮮の耕地面積に付ては從來精確なる統計がなく諸般の經營上種々の不便を免れなかつたのであるが今回土地測量終了の結果各種の土地の關係を明かにすることを得て、茲に始めて正確なる結果を各方面に提供することを得る樣になつたのは土地調査の效果の一として特に述べて置かねばならぬ事柄である。殊に今回の測量は總督の手から漏れる所もなく精確に行はれたのであるが、之だけに此の如き結果に達したことは大なる影響を及ぼさぬので觀察に何等の影響を及ぼさぬのである。

▲總面積

土地所有權の査定を了した土地の總面積は四百八十七萬八百四十九町歩であつて、當初の豫定に比し六割以上の面積の增加である。而して此の中耕地の面積は四百四十六萬餘町歩で從來唱へられて居つた面積に比し五割に近き增加である。又全面積に對する耕地の割合は約二割で、内地(北海道及び沖繩を除く)の一割八分、臺灣の約一割九分に比して團より遜色はない。

▲田畓の割合

次に田畓の割合を見るに、田は二百七十九[illegible]京畿の[illegible]割内外である。

▲林野と耕地

又林野に就て見るに林野は朝鮮の割合は、北海道及[illegible]を除きたる内地は千六百萬町歩、[illegible]地の面積は二千九百三十四坪)[illegible]を含めて二百九十萬町歩と見て朝鮮の林野に對する割合は、朝鮮では二割五分、内地では二割四分に當つて居る樣である。

[illegible]

新任鮮銀滿洲總支配人 阿部秀太郎氏

□滿鐵より石炭を廉價に引く評定

會議所の追加案

既報の如く十二日午後二時開催せる京城商業會議所評議員會に於て追加議案として附議されたる石炭の廉價供給問題に關する内容は朝鮮に需要する撫順炭の供給並に輸送を成るべく廉價に且つ便宜に取計はるゝ樣特に詮議あらむことを南滿洲鐵道會社に交渉の件」にして其の理由とする所は朝鮮殊に我が京城に於けるは

▽撫順炭の市價

は近來次第に騰貴し昨年七、八月頃迄は塊炭一噸の卸値段十二三圓内外なりしもの九、十月に至りて十六圓臺に上り續て十八圓に達し昨臘末に至り終に二十一圓臺に騰貴し一般需要者の苦痛一方ならず各地亦た同樣の情態に在り然るに滿洲に於て我朝鮮に最も接觸せる安東驛の市價を聞くに昨年春季に於て九圓六十錢秋季に於て十一圓四十錢の相場を保ち現在も同樣の價位にして變動なし是れ滿鐵附屬地は同會社に於て保護發展を圖らるゝ意味に於て自から事情を異にするなるも當地との價格一噸

▽九圓七十錢の

大差あるは之を安東驛より當地への運賃噸四圓二十五錢手數料約十錢關稅五十七錢計四圓九十二錢を加算せるものに對し四圓七十八錢の値開きは輸送力の不足と鮮鐵道經營其他特種の方面に關する供給炭の[illegible]に對し滿鐵會社の撫順炭に對する内情の參酌すべき理由ありとするも尙ほ頗る高價なりと思料すべき理由あるに似たり今や當地の不炭は主として撫順炭に依るの外なく輸送も鮮滿鐵道の經營に屬し[illegible]に依り滿鐵會社の自由を有せらるゝ

▽現狀に在れば

出來得る限り朝鮮在住民の苦痛を諒察せられ之が調節の途を求めむとするに在りといふに歸著す之に對し木本評議員は石炭の移入稅、關稅の撤廢を當局に請願することと述べ二三議員の意見陳述ありしが結局本件に關しては會議所商業部に於て至急研究調査を爲す事となれり

◎鮮銀幹部入京

外國爲替會議列席の爲め[illegible]鮮銀新[illegible]東京滯在中なりし吉田節太郎氏並に東京支店長佐藤四郎大阪支店長掛井生沼神戸出張所長宮崎[illegible]大連支店

◎英國書記官北上

英國大使館書記官スペンサー氏は北京へ赴く途次十三日午前十時半當地通過せり(安東特電)

◎佃元滿鐵理事

佃元滿鐵理事は十三日哈爾賓丸にて歸鮮せるが更らに來滿或事業を經營すべしと(大連特電)

鑛三仁川

▲愛國婦人會

仁川愛國婦人會篤志看護婦會にては十三日午後一時より仁川俱樂部に於て年始會を開き幹事の開會の辭あり式辭來賓の祝辭ありて餘興に移り散會せり當日の出席者約七十名に達したり

▲穀物協會

仁川穀物協會にては十四日午後二時より協會樓上に於て役員會を開き六年度下半期決算の件及び其他重要案件を附議すべし

▲女學校展覽會

仁川公立女學校にては十日より十三日迄生徒の新年試驗作品を講堂に陳列し一般の參觀に供したり

◎年末の小包

客臘十五日より三十一日に至る間年末賑客と見るべき小包郵便の京城市内發受數は郵便局引受一萬五千九百個配達一萬八千三百九十一個にして之れを前年に比し引受に於て七分配達に於て八分の增[illegible]

▲一手で取扱ひ

出入品價[illegible]

[illegible]

◎大田鮮銀理事來朝

滿洲鮮銀總支配人大田三郎氏は外國爲替會議列席並に打合せの爲め十五日朝入京の筈なり

◎阿部秀太郎發期

鮮銀滿洲總支配人阿部秀太郎氏は外國[illegible]會議後任者との事務引繼を了り[illegible]

◎阿部讓氏入京

鮮銀[illegible]阿部讓氏は十四日午前八時南大門驛着列車にて入京の筈なり

◎朝鮮鑛業會誌創刊

朝鮮鑛業會にては既記の如く[illegible]を下し其機關誌たる朝鮮鑛業會誌第一卷第一號を發刊せり紙數百三十八頁四六倍判にして論說あり統計あり雜錄ありて鑛業に關する一切の事項を網羅す

人事消息

▲李海昇侯▲閔泳徽子▲李載覺子▲尹德榮子▲李完鎔男▲宋秉畯子▲具然壽氏▲[illegible]▲中樞院[illegible]大監十二日夜内地へ

□内地人士に告ぐ

(三) 朝鮮の農事投資有望

京城 浪士投

[illegible]昨年一町歩に付[illegible]小作米の收穫あり、次年に至り小作料二百五十圓となる居根は千二百五十圓を一萬圓にて買收せし[illegible]五百萬圓を控除し其公課費等の時價一萬五千圓にに[illegible]する場合は三千圓餘に當り[illegible]

安價なる食料品の栽培のみならず[illegible]すべからざる畜産事業たり[illegible]

[illegible]は一時に米價の代用[illegible]居根は草木を使用し居る[illegible]より、樹木も亦不足にして[illegible]補ふ爲め一面に於て大に[illegible]を須ゐざるべからず

[illegible]經營の概要さす内地資本家[illegible]く此の好望にして有利なる[illegible]農事に著目し奮つて投資されんことを望む朝鮮の開發は言ふ迄も無く大に進展の一階梯に非ずや(完)

悲觀者曰く、朝鮮には水旱害あり、米價下落することであり、地稅引上の憂あり、地價騰貴に際して買收するは不利なり、而して急ぎて買收するは大禁物なり、唯懼るべきは害なれども、泰日地方には[illegible]少し、況んや水利組合設置の[illegible]ある[illegible]に於ておや。[illegible]經營は一年勝負にあらず、少くとも五六年の通算を見ざるべからず、悲觀說に對し萬一に[illegible]くは利益を收めしむる手段として[illegible]は主として副業を經營せしむるを要す、即ち農事資金を供給し雜林を企畫し特殊なる耕作を獎勵し肥料の貸與又は販賣を爲す等是れなり。[illegible]内地の資本家が朝鮮の土地に投資するに際し、異口同音に希望する所は個人所有の集團地の買收なり、然れども又之れを集團せしむるは困難にして勢ひ高價なる買收を餘儀なくせしめらる、集團地は水旱害に際し損害を被る虞ある散在地を可なり

小作料收穫(一反分平均)	普通上田	普通中田	普通下田
籾	一石六〇	一石三〇	〇石九〇
金(一石の價)	一四圓	一二圓	八圓四〇
籾の價	二三四〇	一七〇〇	七五〇
諸掛小作料	二四四	一八〇	一三二
差引利益	二一〇四	一五二〇	六一八

(備考)諸掛は管理費と公課の[illegible]

春の歌

又

○創業○第一○身○十年○記○乃○味○辛○
○蛟龍○終○不○池中○物○雲○雨○今○逢○式○亨○
○逆○境○曾○奏○合○同○魁○寧○甜○今○朝○又○見○梅○
○一○曲○陽○關○君○莫○止○春○風○得○意○入○帝○京○
逆神田喜三郎君赴任釜山 服部江南

あたら波のよしや飛沫はかゝるとも變らぬ松のみどりの [illegible]

潮風に彌やけ行く老松のみどり [illegible]

代のすがたを波にうつして [illegible]

限りなく幾世經ぬらん巌松 [illegible]

ちもまして見ゆる初春 [illegible]

和田の原なみちの末も風をきて のどかに見ゆる磯の松原 [illegible]

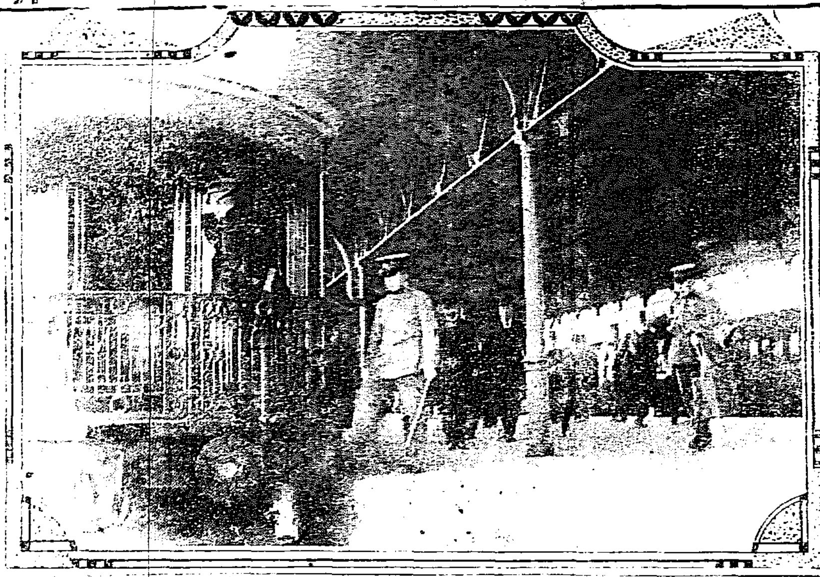
初日影大海原にさしそめて 松のけさのの[illegible]とけさ [illegible]

一羽おり又一羽おり [illegible]

を壽ぐ海の[illegible]への松 [illegible]

海女もまた年のはじめの[illegible]ん船のこぎよする老松のかげ [illegible]

波風も靜まりはてゝ濱松の枝もならさぬ御麗の鳥山 [illegible]



東京驛御出發の李王世子殿下（東京支局撮影）

朝暾美しき釜山 港頭に王世子を迎ふ

◇少尉の軍裝に勲一等を佩ばれ

光の今日ぞ李王世子殿下が久方振に御機嫌麗しく御旅行中の御歸鮮の日なり 四温の朝は長閑なる鶏鳴に明けはなるれば空は名殘なく晴れて恰も麗かなる春の最中の如し、渺茫たる郊外に揺曳する雲は赤く燒け、黄に染まり、軈て空も海も銀色の一線に輝く頃ほいともなれば

◇殿下御搭乘の櫻丸は釜山港上に黑一點の姿を現はしたり 此の時京城より御出迎の爲め來釜せし李秉武子、金春熙男、武藤、趙、桐の各事務官、李載完侯、尹澤榮侯、李完用伯、李允用男、朴泳孝侯外諸氏及び佐々木慶南道長官、若松釜山府尹外各官廳高等官、香椎源太郎、迫間房太郎、李圭正の府協議員等釜山官民有志多數は棧橋に御出迎を爲し釜山中學、商業專修、商業學校、高等女學校、實修女學校、小學校の各生徒千數百名は棧橋より驛構内に塔列し

◇殿下御上陸を待ち申上げたり 斯かる程に船足早き櫻丸は豫報の汽笛の音と共に港内に入り來り約三十分の後棧橋に横付られたり 時に昌徳宮御使李秉武子徳壽宮御使金泰烈男李王職武藤事務官並に佐々木長官の諸氏は船内特別室に御出迎申し上ぐ 殿下は[illegible]の先導にて御出迎の官民に一々御挨拶を爲されつゝ御上陸相成りたり此の時

◇殿下は陸軍步兵少尉の御軍服に勲一等[illegible]を佩用長途の旅行にも拘はらず些の御疲勞の模様も無く御顔色殊の外艶々しく見受けたり、棧橋より驛構内は憲兵の先驅藤本助役の御先導岡村主任、橋本釜山署長、野津警部等警護し鐵道ホテル特別室に入らせられ御休憩の後御出迎の各貴族及び釜山各官廳高等官各學校長、香椎、迫間、李の諸氏に御接見相成り斯くて午前十時半釜山埠頭發列車に連結の特別車に御搭乘相成り官民御見送りの裡に京城に向はれたるが此の日釜山市中は國旗を掲げ歡迎の意を表せり（釜山特派員發電）

雲ヶ畑御獵 開始

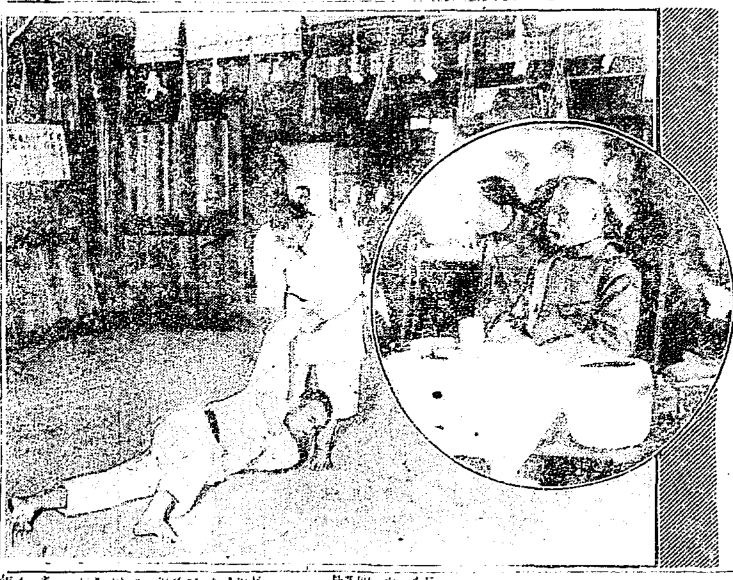
雲ヶ畑御獵は十七日より開始の筈なり（大阪特電）

復々新潟の大雪崩

新潟縣南魚沼郡三俣村大字[illegible]にて壓死者九十六名未發掘者三十五名を出せり（大阪特電）

行員小使共謀 行金一千餘圓窃取

[illegible]



講道館の鏡開（右）臨場の長谷川總督

花々しい吉例 鏡開き

講道館朝鮮支部では鏡開きが一月十三日午前十時憲兵隊司令部演武場で開かれた、先づ柔道場に好を喫めた成年、幼年組の稽古試合が火の出る迄りに激しい間に長谷川總督が齋藤副官神田秘書官等を從へ馬車で來られる、それから古海警務總長も來られる、其他多數の來賓が着席すると支部設置の功之れを以て勞者總督府編修課の二段小田省吾氏から支部設置迄の經過に就いて簡單な挨拶がある、夫から幼年組の

◇二組の試合 があつて引續き波來谷、渡邊兩三段の鮮やかな投の形があり角田、加知兩少年の柔の形が終れば肝付五段審判の下に岡村四段と波來谷三段の極の形、之れは短刀または太刀を以て斬り込んで來る所を無手に防ぐ晴れの術で觀客一同の拍手喝采も止まなかつた、其れが濟むと幼年組の三本勝負が勇ましく續いて有段者の段取りと成年者の試合があつた、次は波來谷三段に無段者五人が打つて代りに摑み付いて試合つたが三人目には遂に三段が一本拔かれた、之れがなか／＼の見物で

◇鏡開の演武 は終つた、餘興として岡村四段の「大塔宮野落ち」の琵琶一曲が演奏され午後零時半盛況裡に散會した、當日は來賓として前記總督及び總長の外に關屋局長前田[illegible]長校井所長[illegible]原典獄[illegible]其の他警務總監部の高等官所内各警察署長等多數あつた、因に目下京城在住の

◇有段者は 次の如く二十五名計りあり ▲五段 肝付宗次 ▲四段 京城中學校岡村豐作 ▲三段 京城[illegible]警務所波來谷乘勝、西大門監獄渡邊嘯藏、本町署永島義高 ▲二段 總督府小田省吾、鍾路署吉武雄一、土地調査局[illegible]私立五星學校齋藤[illegible]、商業銀行高杉[illegible]郎、南大門通角一商會杉浦[illegible] ▲初段 朝鮮銀行二宮聰次、尾石剛毅、小澤萬兵衛、新宮忠三郎、遞信局天野悦三、女子高普安藤文郎、東洋協會渡久、總監部宮崎貞一、龍山[illegible]道加藤清三、漢城銀行堀正一

群馬にも大雪崩

群馬縣高山地方は十日より大吹雪にて積雪二十尺に達し十一日五百間の山上より積雪崩壞九名雪中に埋沒し未だ發掘せず（大阪特電）

銃と劍の中に我等は 新らしき年を迎へて

✕光明な輝い芽出度い事があるでせう。

露西亞副領事マリニン氏談

[illegible]何なるものであらうか。眞個のロシヤ領事マリニン氏を訪ふた

『一千九百十七年を送り新たに十八年を迎へるに就いて私は實に萬感交々と湧出で、何と纏めて語るべき語さへ見當りません。新年といふと何處の國民を問はず皆一様に芽出度く悦びを以て迎へるものになつてゐるけれども吾々ロシヤ人は何んといふ事でせう！最近故國よりの消息を聞けば例の

✕反亂が起つて以來一般人心は恟々戦々として不安んずるところを知らずペトログラード邊りでは町内の若者を選んで武裝をさせて交替に各自家の門戸に立たせて不意の災難を防ぐといふ有様ださうです。是は吾々ロシヤ人はこの芽出度い一千九百十八年を

✕銃と劍を以て迎へる様なものです、そして男女老幼を問はず暗い室に閉込つて災難が今にも來はせぬかくと氣を揉んでゐる樣ですが何んと情けない事でせう。今のロシヤは全く重病人の樣なもので、良き醫師がなければなりません又よき藥もなければなりません。吾々は常に我が母國のために

✕良き醫師と良き藥を求めて居りますが新年を迎へるに當つて尚一層それを痛切に感じます。しかし神樣はいらつしやいます！暗い穢ない不吉なすべてのものは舊き年とともに永久に葬り去られ、光明な輝き芽出度い事が新らしい年とともに我等に來るべき事を確信して疑はない譯です』

壽の餅花 ◆美しく拵らいて

十二月夜千代本に催された[illegible]大日本麥酒會社招待會[illegible]

◆梅の花の徽章と◆花簪風に作られた

[illegible]

芳文畫伯重體

京都の菊池芳文畫伯は昨今重態に[illegible]（大阪特電）

漢江の氷すべり

[illegible]

珈琲を種に 八千圓の詐欺

去月下旬浦鹽より他人の旅行券を所持して當地に上陸したる犯人は其の後釜山署に於て嚴重取調の結果同人は石川縣金澤市安江町三十三番地當時浦鹽在住の居商業者商桑喜作（三）と云ふものにして珈琲拂下げを種に大詐欺を働き逃走したる由自白したり 喜作は十一月廿九日雇人南學松と共謀し浦鹽在住の鐘江傳四郎を介して大阪より商用の爲め來浦したる上野藤三郎に裁判所より珈琲三千三百圓價額七千[illegible]の拂下品出されれば之を買取り内地へ輸出を致し度ければと斯ふて同所を作つて同日喜作は傳四郎藤三郎及ひ共謀の南學松と共に裁判所へ到り三人を門外に待たし一人役場へ這入り喃々として出て來たり本日は保管人が不在につき明日十一月一日なれば現品は明日引渡すべきに付き半金を引換へにすべく午前中に金渡し置き呉れと申しを持つたる言葉に欺され藤三郎は一千八百圓を渡し置きたりと聞く[illegible]

泥棒に狙れるか ◇どんな時刻に

京城本町警察署で最近調査した統計に依れば管内での盜難の被害時間は朝の内の午前七時から十時迄に盜られたといふのが十月が二十六、十一月が十八、十二月が十九回、それから一月が七日迄に二回であつた、午前十一時から午後一時迄の所謂白晝間が十月三十三、十一月二十八、十二月二十四と[illegible]

國技館 春場所星取表

（表中○勝●負×分△預）

[illegible]

子を持つ親の用心 △幼兒の風邪に注意せよ

[illegible]オインは[illegible]

天氣 晴れ一時曇り

パール椿油 パール化粧料 發賣元 平尾贊平 パーレート 東京 大阪

月二十四日午後十時頃行金一千三百圓を何者にか窃取されたり一月一日午後十二時頃之れが屆出でに接したる全州警察署にては直ちに密かに注意中の所同銀行の小使にして全州面高砂町居住の徐一龍（二〇）は近來身分不相應の風采をなして金使ひの荒きより同人を引致し…左近町居住の…（二〇）の兩名が

▲共謀して 行金一千三百圓を窃取し居れる現場を前記の徐一…宅捜索をなしたる所現金及び預金通帳等有力なる證據物件を發見押收し齋藤平次は直ちに

▲逮捕され しか本村辰彦は…逃げ出したるが之も逮捕…下全州署に留置取調べ中

◉暴徒に襲はれて
醫師逃げ出す

…一両日中に馬總統に謁見し有力なる防疫委員長の任命を要求す可し（北京特電）

◉連絡船上陸客 十二日午…

…三郎、高田…、江頭…、北尾…、…、大塚…、橋本千五…、…、…、…、…、吉川啓介、外人三名、三等百七十五名

◉和田博士追悼會＝十二日於曹洞宗別院＝

◉慶北優良小麥

慶尚北道に於ては優良小麥の普及を計る爲め大正六年度終期に於て各郡別に計畫を立て總じて八千七百十三町七反歩を耕作すべく種子の交換又は共同購入等各種の獎勵を與へたる結果現在蒔付反別六千百五十六町四反三畝歩に及び之を種子別にすれば江島二千九百八十一町四反『カリフォルニヤ』二千百七十五町三畝歩にして若し之にして大なる故障なく收穫するを得る時は一反平均一石三斗と見做して

▲八萬二十四石 を得る豫想なるが今此の内三分の一を販賣に付するも其額實に二萬五千餘石に達すべく從來慶北に於て約十五萬石の收穫中其の大部分は之を費消し道外に搬出するもの僅かに四五千石に過ぎざりしに比すれば今回優良小麥を完全に耕作せる曉は慶北の農産物輸移出高著しく増加を來し從て一般農民の經濟狀態に多大なる好影響を及ぼすべく尚

▲右優良小麥は 普通水田の裏作よりも旱魃田の二毛作として最も適當する由なるが右は旱魃多き田にありては時に依り天水を待て苗の植付を爲す處多きに朝鮮の雨期は普通七月頃なるに依り該小麥の收穫が普通六月なる爲め天水を待つ間に小麥の收穫を了るを得べく斯かる方法を用ゆる時は從來作を爲さず雑草荒田として利用せざりし土地に於て充分に

▲小麥の收穫を 爲すを得べく且つ慶北に於ける右小麥の品質は極めて良好にして北海道及び長野地方のものと匹敵し從て内地製粉業者より大に囑目され現に過般の如きは大邱なる製粉工場より見本として一貨車だけ送附すべく申込みありたる位ひにて殊に小麥は世界的の食料品なれば其の需用は實に無限にして

▲從て賣價も高く 價格も頗る低廉なるが從來の小麥は在來種に比し收穫高頗る多き由なるを以て目下農民競ふて之が栽培を希望する有樣なるが斯…

◉九段の東京大相撲と觸太鼓

▲石十一圓位ひ にて土地…手均し一石三斗內外なるが賣價は…に依りては本作より遙かに多くの收益を見るを得べしと尚永川郡知谷面面長は率先し優良種の配布を受け之を耕作して多くの收穫を

□救世軍より本社へ

京城日報社 韓長殿

拜啓 陳者現時市内に頻出致居候幾多窮民の慘狀救恤に就ての救世軍の事業に對し多大の御援助を賜はり申候段厚く奉謝候殊に又貴き貴紙面上に吾軍救恤の狀況御掲載被下候段吾として全國京城婦人會より尊敬すべき御同情の御義捐金十五圓也の御寄志を奉ふし申候段謹で深厚なる感謝の意を表し申候

別封京城婦人會に對しての小額感謝狀御下まで御封申上候に付…御傳達被成下度候…尚東に今一通小軍救恤賑災者寄附申上候に付御掲載被下…候…最後に…追而引續きての救恤に…當の次第大に…文字を敢…

…して之れが耕作益々盛大となるに至れば遂に我が大邱に一大製粉工場を建設するも可なるべく之又大邱の一繁榮策と云ふを得べし因に右小麥は一反に對し少し上作なれば優に二石の收穫あるも上下

…得之を村民に頒めて石十六圓位の高價にて其種子を販賣せる村民のみならず永川郡一圓の農民は其の價格の高きと收穫の多きを聞きて爭ふて之を購求し同面のみにて約四十石の種麥を供給したる由なるが之又面白き獎勵法の一と謂ふべし

◉生鰊漁業盛況

釜山埋立北港に目下鰊の水揚げするもの日を逐ふて盛況を呈せり右は蔚山及び方魚津方面より出廻るものにして釜山の鮮人仲買に依り鮮内各地へ頒布するものなるが相場は昨年より高價にて一同(一千尾)金五十五圓を唱へつゝあるも本年は同近海に於ける生鰊は豐漁にて一日二十萬尾の水揚を見ることあり漁期は昨年より一箇月餘も早かりしは寒氣の迫りたる爲めにして小賣相場は一尾三錢位なり

◉釜山の舊棧橋

昨年十一月十六萬圓を以て大阪の商の手に賣渡されし釜山舊棧橋は其後解體に着手し居れるも何分寒氣嚴しき折柄とて一向進捗せず又今爲に充分の解體をなす時は約十萬圓の損失を見ん形勢なれば此儘三者に買却せんとするも猶五六萬圓の損害は到底免れざる域に達し全部の解體を遂ぐるには約四箇月間を要すべしと

◉平壤最近戸口

平壤府に於ける客年末現在內地人戸數は三千二百六十八戸人口男六千二百六十一人同女五千三百四十八人計一萬一千六百九人朝鮮人戸數一萬一百五十八戸人口男二萬二千九百二十六人同女二萬二千六百五十一人合計四萬五千五百七十七人外國人戸數百七十八戸人口男五百十一人同女百八十一人計六百九十二人なるが之を一昨年末に比するときは戸數に於て三百戸人口に於て千二百人の増加なりと云ふ

◉平壤の勞働賃金

諸物價の騰貴と諸事業の勃興とは延て勞働賃金を昂騰せしめたるが現今平壤に於ける各種の勞働賃金は大工日人一圓八十錢同鮮人一圓三十錢左官內地人二圓五十錢鮮人一圓農夫內地人一圓鮮人五十錢石工內地人二圓五十錢鮮人一圓二十錢木挽內地人二圓鮮人一圓二十錢人足內地人一圓鮮人六十錢乃至六十錢なり

◉大同江の結氷

大同江結氷の厚薄に付き去る十日平壤稅關出張所にて取調べたるに最厚は一尺七寸にして昨年同期の一尺五寸に對比し二寸の加差あるは要之客臘來の寒氣が昨年よりも酷烈なりしに依るべく厚薄の平均は五寸位と見るを當れりとすべし尚ほ十日より寒氣減退し天候暖晴となりしが鮮人側にては此樣ならば最早や今後零下の寒氣を要求する事なかるべく否却つて氷期の早かるべきを豫想し採氷は…

◉亞鉛引板昂騰 鐵材と共に客年末一時底入相場を稱へし亞鉛引平板も新春相場の鐵板高に伴れ兩度に亘りて三十丁方の昂騰を來たし平壤の市價六尺物首印三圓四十錢を唱び尚ほ後高の見込みなるも近時結氷期に際し工事界不振の折柄取引捗々しからざる模樣なり次に洋釘も一般鐵類の奔騰に隨ひこれも五十錢高を稱へ居れり其他金物類も近來漸騰の氣配を示し斯界活況を呈せり

例年二月上旬に於てすべきを昨今早くも其作業に取掛らんとせり

◉慶北雀害驅除數 大正六年第四回（八九月）慶尚北道內雀害驅除數は驅除戸數一五二、八九六戸同住宅個數五一六、四三七個にして雀巢三八四、五五一、鶉雀二九六、三三七雌雀七二、七二〇卵三、一七九九合計四萬二百八個なるが今卵雛等合して一羽平均一年間四合の籾を食するとせば其總高千六百餘石となり此總被害高は實に一萬六千餘圓に達する譯なり

◉警務部長巡閲 新任平安南道警務部長大橋常三郎氏は近々中警察署及び市內各派出所等を巡閲する筈なるが日取は未定なり

◉淨土宗開教院（本町三丁目）

…三日午後一時より婦人會の新年會を催す…後藤…の法話あり…同十四日午後六時よりは…年會を開き…分…

◇新案温鼻器＝助太郎＝（1）引續いた寒氣のために毎日ストーブに親しんで温鼻器の發明に腐心してゐる。（2）大凡の考案が成立したので西君早速醫者のおかみさんの家に行つて診察室に在つた聽音器を失敬して得々として引上げて歸つた。（3）聽音器の象牙だけを取りすてゴム管の大きい口の方を懷爐に差込んで二つの小さい方の口を鼻に差込まうと云ふ苦心。（4）お正月にお母さんから買うてもらつた耳袋に防寒帽子新發明の温鼻器是れだけ揃へば零下廿度も何のそのと大活動大得意。

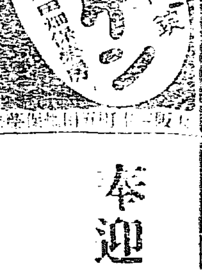
橫濱 ニッソ 牛乳 石鹼洗粉
本舗 肥塚正太
京城蓬萊町四丁目 東亞牧場 電話二五二番

△△朝鮮名物△△
金剛飴
金剛山
京城本町 電話四七五番
龜屋

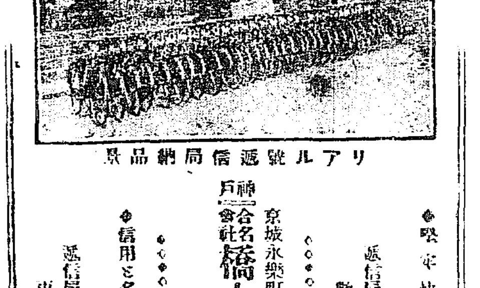
各國洋酒 洋菓子 千葉葡萄 洋食品 問屋
京城本町二丁目 大橋商店 電話一九六五番
京城若草町二 輸出入部
振替參弐弐參番

百圓
資金で一時に千圓、五千圓になると云ふ樣な冒險的の致富法は空想ですが安全に資金を三年元金の十倍は間以上にる利殖法を本紙讀者に度限り詳報す希望者は此新聞を郵送(五厘切手貼用)するか又は本紙へ照會あれ
大阪西區九條通一丁目 共成社

殘品處分大見切
輸出玩具
…人形動物其他輸出向雜貨…三倍以上の値打品…最適當至急注文あれ
四百壹圓詰參圓有利
百箱先着五百箱限
東京本所神明坂 野村家商店
振替口座東京一〇二八三番



特約店 京城南大門通二 新井藥房

奉迎

リアル號遞信局納品景
◎自轉車は弊社の短所なり…
◎…事實に如かず
◎堅牢快速なるリアル號は遞信局御用として數度御買上の光榮に接せり
◎信用と名聲を有するアライアンス號は遞信局御用として再度納品の榮を得たり
神戸 合名會社 橋本商會 京城出張所
京城永樂町二丁目 電話一五七九番

奉迎 李王世子殿下
サクラビール
神戸 鈴木商店京城支店
サクラビール サクラビール サクラビール

奉迎李王世子殿下
京城…
坂井儀八

報後

▲京城温度 十四日…
（一月十三日正午）…

左甚五郎

第百三十七席 桃川如燕口演 浪上義三郎速記

柏屋の主人は常吉の知らせを聞いて大いに驚き 主『然うか、宜く知らしてくれた、宜し〳〵今の内に直ぐ何だ、離れへお逃し申すから瀧さんに宜しく云つておくれ何分間違ひのないやうに、お骨折を願ふつての 常『宜うござんす、じやアお頼申します』常吉は距つてしまつた、主人は座敷へ來ると大勢ワーワーといふ酒宴だから仕手方に知れては面倒と思ひ、内々甚五郎を一間へ呼んで 主『今瀧から知らせがありましたが怪しい〳〵と云ふ話し、間違いのない内に離れへ一ッお前さんだけは行つて居て頂きたい』甚五郎も大きに懸いて 甚『そいつはまアとんでもねえことで、さア瀧さんが心配をしてくれゝば間違ひにもなるまいが土地の人達に怪我をさせたくはない江戸から伴れて來た者にも怪我をさしちやア濟ねえ、兎に角俺が居ない方が宜からうから、それじやア一ッ離れへ行きませう』と主人の案内で裏へ出ました、主人はブラ提灯に燈火を點け先に立つて行く母家から離の座敷までは十五六間でございます間に高い欄がある 佐『棟梁危ふございます』と云ふ途端に欄の中から突如躍り出した一人の男、ヤッと一聲、ピカリ閃いた刃の光り、キャッといふと甚五郎は其處へ打仆れた、是はと驚いた柏屋の主人、曲者は早や何處へ逃げたか姿も見ねません 主『オーイ誰か來てくれ、誰か居ねえか早く來い』と大きな聲で呶鳴たから居から召仕の男共が大勢飛んで來て見ると甚五郎は二の腕から右の手を切落されて居ります、驚いたのは柏屋、早速仕手方の者に話しをすると、皆一同大きに驚いて急ぎ甚五郎を離れ座敷へ擔ぎ込んで直ぐ醫者を呼んで手當といふ、處が切られた腕が何處かへ持つて行つたものと見ね其處等を探したがございません、さア政吉始め一同何でも是は土地の大工の仕事に違ひねえ、太ねことをしやアがるもんだ、栗原遠江を初め日光大工を片ツ端から鏖殺にしてしまはにやアならねえと、さア何も大變な騒になりました、此方は栗原遠江大勢を集めまして酒を飲んで瀧五郎の安否を待て居りまする處へ 瀧『ヘエ棟梁、今行つて來ました』栗原遠江になつて歸つて來た瀧五郎 栗『あゝ瀧か、大きに御苦勞だつたさア一杯飲め』瀧『有難うございます、棟梁、お前さんは甚五郎の首を叩ッ斬つて持つて來いと被仰つたが、然し何も命を取るほどのことでもねえ、以來甚五郎の仕事の出來ねえやうに、野郎の腕を一本叩ッ斬つて持つて來た、何うか棟梁、是で負て置いてやつておくんなさせえ、命だけは無事に助けておくんなさるやう、瀧五郎が心掛た酒の肴、何うかまア棟梁、是でニッコリ笑つておくんなさい』栗『然うか、それで宜い、成程命ならずとも甚五郎の二の腕を其處へ出して、命を取までのことは無ね、野郎が此の後懲を取つて仕事をすることが出來ねえ、それで宜い、大きに御苦勞だつた、さア〳〵まア一杯飲め』と盃を出した 瀧『有難う存じます、じやア頂戴をいたしますと』お辭儀をしながら前へ進んだ瀧五郎、ヤッと一聲抜討に躍りかゝつて栗原遠江の右の二の腕をポロリ血煙立つて切て落した、アッとデつて其處へ倒れる、周圍に居りました一同の者が 『ヤア瀧兄イ、お前とんでもねえことをしなさる』といふ内に其の腕を持つて瀧五郎は表へ飛出しました

痔疾專門
京城久枝肛門病院
京城明治町二丁目(本町より入る中程) 入院隨意 電話二一〇二番

外科一般 皮膚科 泌尿器科 花柳病科
院長 安部修三
京城永樂町二丁目金光教會隣
安部醫院

一月十五日 九星 舊十二月三日 壬戌 本命五黄

演藝案内

黄金館 電話二三六六・二三六七

壽座 京城壽町 電話五七八番

有樂館

浪花館 明治町二丁目 電話二六〇番

大正館 櫻井町 電話八七三

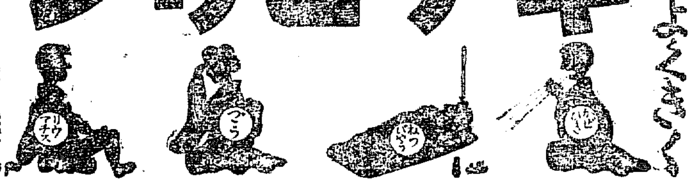
稻荷座 本町五丁目

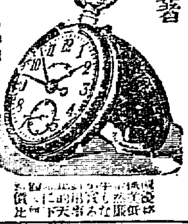
壽館 京城本町 電話一〇五〇

御待兼ねの 八八道具 花札外 新荷着仕候
京城本町二丁目 洋家具商 森啓商店 電四三〇番 振京城一五〇番

富の道しるべ 山縣五十雄 村上唯吉共著 價十五錢 郵税二錢
京城太平通 京城日報社代理部

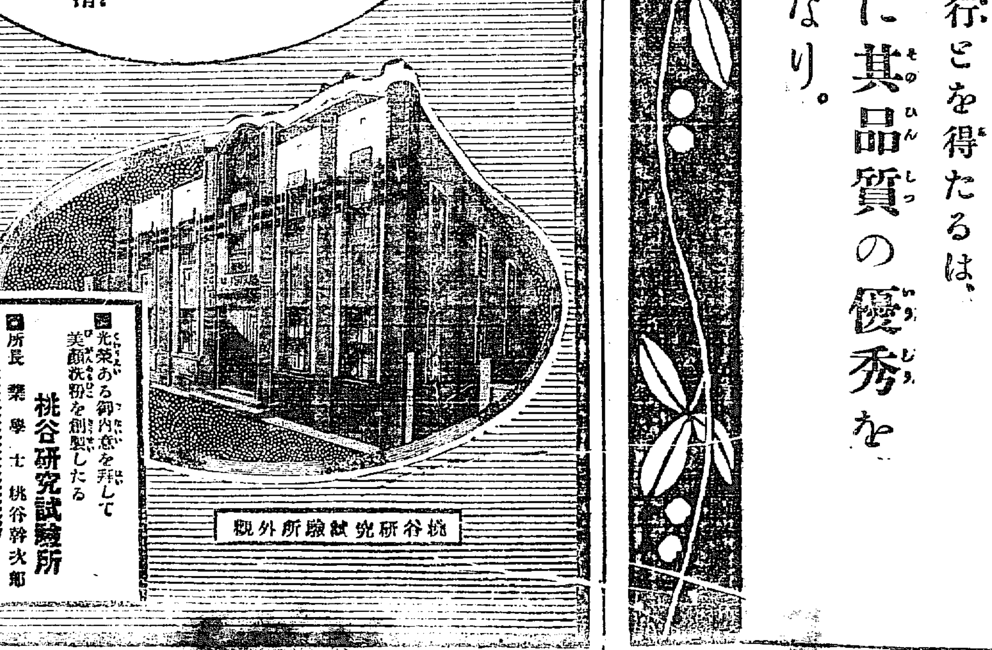
陸軍拂下 並に官衙拂下品 靴下手袋被服一切
京城府漢江通三 電話長三六番 佐藤古着店

かぜねつに 一番よくきく キナピリン

◎キナピリンは◎感冒◎熱病◎頭痛◎インフルエンザ◎リウマチス◎間歇熱(マラリヤ)等に大効あり
(定價 包入拾錢 五包入廿錢 八包入三十錢 十五包入五十錢 三十二包入壹圓)
大阪市堂島元蛸稻 本舗 高橋盛大堂藥局
東京市神田區柳町 發賣 高橋盛大堂出張所
何れの藥店にも販賣す

新荷着 懷中時計

本店 京城本町二丁目 電話九七二番 イングレッシー商會

佛蘭西式 純白 美顔洗粉

皮膚の美しさを増すのに是非必要な蛋白質と中性脂肪とを適度に含んで居り、それに皮膚の荒れを防ぐ粘液素と、垢ヌケして美しくなる力の強い原料など、凡て專門の學者が新しく研究した美容原料を配合せて製へた優秀な洗粉ですから、皮膚を氣持よく洗淨ぬるばかりでなく、皮膚を滑かにして美しき光澤を添へ、垢ヌケして、容貌の美しさを増す作用が特に優れてゐます。それに此洗粉は一見他の洗粉と違ふ程色が純白で且つ匂ひが清新なので、近頃ますます評判です


桃谷研究試驗所外觀

光榮ある御内意を拜して美顔洗粉を創製したる
桃谷研究試驗所
所長 藥學士 桃谷幹次郎
技師 理學士 西澤勇志智
同 醫學士 米倉昌達
同 千葉藥學士 小磯勝次郎
同 仝 藥學士 齋藤銳助
顧問 醫學博士 丹波敬三氏
藥學博士 山本淳二氏

萬人の聲には眞實あり!
ライオン歯磨が
赫赫たる名聲と、
偉大なる信用と、
多額なる賣行とを得たるは、
最も確實に其品質の優秀を語るものなり。

ライオン歯磨本舗 ライオン石鹸本舗 小林富次郎

淋病新藥 ツヨール
故下山藥學博士、慶松藥學博士、笹川醫學士、加藤圖・諸學士、山田獨逸醫學士等の實驗の結果理想的内服藥と確定せる。
◎到處藥舖にて販賣
製造元 東京市日本橋區川瀨石町 ツヨール商會
發賣元 大阪道修町三丁目 田邊五兵衛

京城日報
十四日朝刊
(朝夕刊併せて八頁)
發行兼編輯人 奧田直　印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社

第五版

……を遂行するや我政府之が……に付き數次の交涉を重ねたる……ろ相互間の主張要求に多大の……
……必要なる船舶……完成に要する不足材料を技術……に於て應急補充せしむ……が一面米國に於ては……

京城日報
我國史と國體(三)
上古に於ける韓半島の開導と我が國體(中)

我が帝國が素盞嗚尊以來、對韓の經係は、依然として繼續し、半島經營の任に當りたるに拘らず、崇神垂仁時代に於て、僅に半島との交通を生じ、大伽羅國、任那國、新羅國等の王子來朝等の事件の突如として續出したるが如き觀ありしは、日本書紀の古傳が神勅の關係に由りて中斷せられたるに由るのみ。崇神天皇即位の七年、大物主神天皇に誨へて曰く。

天皇復た愁を爲す勿れ。國の治まらざるは、是れ吾が意也。若し吾兒大田田根子を以て吾を祭らしめ給はゞ則ち立ろに平ならむ。亦た海外の國ありて、自ら當に歸伏すべしと。

即ち前に指示せし、中斷は、之に由りて生じ來りし也。其の後十三年三月の詔勅に曰く。

今ま罪を解き過を改め、敦く神祇を禮し、亦た敎を垂れて荒服を綏むし、兵を擧て以て不服を討す。是を以て官に廢事無く、下に逸民無し。敎化流行、衆庶樂業。異俗重譯し來り、海外既に化に歸す。

蓋し異俗重譯して來り、海外既に化に歸すとは、即ち半島諸國の皇化に歸せしを謂ふ也。亦以て韓半島の諸國が、此時より始めて我が屬國と爲りし事實を知るに足るべし。

蓋し三輪の大物主神は、初め韓半島に天降りし素戔嗚尊系統の祖神なる出雲の大巳貴命其の神にして上古韓國を統治せしが故に、崇神天皇の時に當り、又た韓半島經營の指導者たるべく神勅を爲し、五年にして其の事大成せりとするは、出雲系神胤の諸豪族が此時に至るまで上古以來繼續したる潜勢力を半島に有したることを示すものにして、其の後神功皇后征韓の結果、半島の領有を確定するに至るまで、出雲系神胤の諸豪族が終始を一貫して、絶えず半島經營の任に當りたる古傳を存せしものと認めざる可からず。但だ大三輪朝臣の史文亡びて、其の詳を知るに由無しと雖も、日本紀の斷片に據りて其の事實如何を研究すれば、出雲系神胤の諸豪族が、對韓政治の指導者たりしことは、殆んど疑ふ可からざるが如し。即ち垂仁朝代に於て、三輪大友主君が、新羅王子天日槍を訊問したるが如きは、其の一例也。

日本紀の古傳に在りては、垂仁天皇の晩年より景行、成務の兩時代に於ける對韓史實も亦全然不明に歸し去りたるもの、是れ亦神勅の關係に由るのみ。我が對韓古史の殘山剩水と一般、連續して容易に其の眞面目を知る能はざるに至りしは、首として此神勅と語部の缺點に源因すと雖も、神勅を動機として、最大無上の崇敬を表するものは、日本民族が半島に對して常に勝利者たり、征服者たる位置と光榮とを占めたることと並に其の勝利者たり征服者たる位置と光榮とを與へて之を融成に歸する國俗なりしに由らずんばあらず。是れ實に語部の短處と同時に、我が國民性の長處と國體の精粹を見るべき也。

馬の祖先(一)
農學博士 下郡山誠一

馬の體の中で特に注意を要するものは肢と蹄である。而して此肢及び蹄の研究がこゝに述べんとする馬の祖先の調べに大切なる關係を持てゐる、馬の肢で前後の肢とも中程の關節即ち普通の前膝後膝と云ふ所は普通の獸類又は人間の肢に比すれば、手頸、足頸であつて眞の前膝、後膝は其れより上方腸腹に接近した所にある故、寸氣がつかぬのである、然らば馬の通稱前膝、後ろ膝(眞の手頸、足頸)の下にある腔の如く見ゆる部分は何であるかと云ふに之が實際の掌(前肢)及び蹠(後肢)に相當するものである。一般獸類の掌(蹠)は幅廣く中には五本の掌(蹠)骨が扇子の骨の如く並んで入て居て先には夫々五本の指(前肢)(趾)(後肢)を付け其の中にある指(趾)骨に連つて居るのであるが馬では前後肢をも五本あるべき掌(蹠)骨の中の中央の只だ一本即ち第三番目の掌(蹠)骨だけが非常の發達をなし、前にも云うた如く腔の樣な一本の棒となり其先に第三の指(趾)一本を付けてゐる次第であつて馬の脛の下方蹄に近き部分で屈折する所即ちつなぎと呼ばるゝ所より蹄までが即ち是れである。例へて見るならば馬は人間又は他の普通の獸類の中指(趾)一本で立ち、而も其先の爪のみを地に付けて歩行する形になつて居る譯で眞似樣としても迚も出來ない奇妙な足の構造を持つて居るのである。尚ほ之が中指(趾)たる證據には皮を剝き骨を見れば一層よく首肯せらるゝ、前にも述べたるが如く脛の如く見ゆる所より長大なる掌(蹠)骨を取出して見るに其後面の兩側に各一本づゝ細長なる骨が附着して居る之が第二第四の掌(蹠)骨であつて現在の馬の蹠では不必要になつた爲に消失しかゝつて纔に其名殘を止て居るのである。此が中々面白い所で北亞米利加及歐洲地方に於て地質學上新生代の第三紀と呼ばるゝ時代の中期の地層より發見せられたるメリキパスと稱せらるゝ馬は此第二、第四の掌(蹠)骨は餘程よく發達し先に指(趾)骨及び蹄までも付けて恰も手が鹿の足の後面に附著して居る懸蹄の如くに地にこそ屆かぬが立派に三本の指(趾)があつたのである。又北亞米利加の第三紀の中期より少し古い地層から發見せられたるメソヒパスなどは此三本の指(趾)が皆完全に地に付て居り其他に第五掌(蹠)骨が未だに消ゑずに殘つて居たことが知られた、次に同く北亞米利加の第三紀の初期の地層よりはハイラコテリームと云ふ一種の馬が發見せられ之れには四本の完全なる指(趾)を具へたる上に不完全なる第一指をも有し五本の指が揃ふてゐたと云はれてゐる。以上述べたる前世界の馬に取りても其中の一例に過ぎないが實際今日まで世界各地方より發見せられたる馬類の化石は此他に十餘種にも達して居る、而して斯くの如く同一部類の動物が各地質時代を通じて盛に順次に變遷を示して居る事は實に學術上顯著なる事實で假し是等の例證が現在の馬蹄の本系でないにもせよ馬類としての進化の經路を説明して餘りあることである。換言すれば現今の馬蹄は古き祖先より斯る一本指(趾)の足を持て居たものではなく今日見る一般獸類の樣な五本の指を具へた祖先より降つて來たと云ふのである。扨て以上の化石より祖先の馬類の形を想像するにプロトヒパスは驢馬大、メリヒパスは羊大、ハイラコテリームは兎大にして古きに溯る程體が小さく肢も短かゝつたのである。又多指(趾)を有して居たことより考ふれば古き馬の祖先は濕潤地帶の軟泥なる地上に棲息して居た動物であつたが地質年代の進むに從ひ其等の沼澤平原の如き地盤に出で來て跳ね廻る樣になり同時に其平原生活に適應する體の構造を持つことゝなり肢にも大變化を起し次第に指(趾)の數を減じ細さすらもしたる一本指(趾)の足にて疾驅する樣になつたのである。

遊支偶錄
蘇峰生

(一) 前遊と今遊

大正六年は、如何なる運り合せの歳にや、日本より支那へ巡遊したる者、近來未曾有とも云ふ可き數に上れり。予も亦た御多分に漏れざる一人にてありき。而して予の行程も亦た概して、月並的にして、其の日數も、僅かに八十六日に過ぎず。但だ御多分黨の一員として遊りしと、若干の旁徑、岐路に彷徨したるの差あるのみ。

即ち九月十五日に東京を發し、京城に赴き、それより安東縣、奉天、長春を經て、哈爾賓に抵り、踵を回らして長春に還り、吉林を見、更らに長春より奉天を經て、大連に留り。再び大連より大石橋を過ぎて營口を觀、遼河を渡りて山海關、秦皇島を觀、天津より北京に著し。北京より八達嶺、張家口を覽、大同に到り、石佛寺を觀ね。轉じて再び張家口を過ぎ、湯山温泉に浴して北京に滯り。北京より京漢線に由りて漢口に到り。漢口より長江の汽船にて、九江に下り、更に南潯鐵道にて南昌に向ひ、又た九江に返りて廬山を望み。南京より鎭江に下り、揚州を訪ひ、遡りて焦山に遊び。鎭江より上海に著し。此地に滞在中杭州を見。上海より蘇州を經、再び南京を過て、浦口より汽車に上り、曲阜、泰山を覽て、濟南に著し。濟南より淄川、博山、濰縣、坊子等を經て青島に到り、青島より馬關に著したるは、十二月八日にして、翌九日の夕を以て東京に歸れり。

之を明治三十九年五月二十五日に東京を發し、八月十日に還りし、七十八日の前遊に比すれば、日に於て、僅かに一週間の長きに過ぎざるも、其の行程に於ては、單に前遊を繰り返したるに止らず。乃ち京漢線、津浦線、山東線、京綏線の如き、何れも初經にして、滿洲に於ても、露國騷亂の初期に屬して、纔ひに初めて哈爾賓に遊ぶを得たり。但だ前遊に及ばざるは湖南に於ける、長沙、湘潭の一方面のみ。然も前遊に於ては、滿洲は昌圖に止まり、北京の北方は八達嶺に止まり、長江に於ては、岳州、湘潭以外、唯だ南京に、立ち寄りたるのみにて、上海、漢口間を上下したるのみ。其の行程の得失固より同日の論にあらざる也。而して其の重なる都府に於て、前遊を繰り返したるは、比較的觀察の上に、多大の便宜と、興味とを與へたると、固より言ふ迄もなし。

惟ふに前遊は日露戰役後にして、交通の不便頗る多く、而して又た時期に際せり。今遊は一切人事上の便宜に加へて、概して晴天にして、偶ま雨雪に遭ふも、雨衣を著け、傘を用ふるに到らず。朝鮮の秋を賞し、滿洲の秋を賞し、幽燕の秋を賞し、江南の秋を賞し、齊魯の秋を賞し、殆んど一路秋光を趁うて遊びたるが如き趣ありしは、偶然と云はん乎、天幸と云はん乎。

(二) 妄言と妄聽

兀來予の支那遊たるや、異例の漫遊也。公務もなければ、私用もなし。但だ支那に關する吾が智識の、年と與に、如何にも一膜を隔て、何となく歯痒きを覺ゆるが爲めに、支那其物に接觸せんと欲したるのみ。要するに漫遊のみ。諺に行動けば犬も棒に衝ると云へり。乃ち予も亦た棒に衝らんを、期待して行きしのみ。

調査とか、研究とか云ふは、特殊の目的を有する人の任務也。予の如き漫遊客に於ては、漫々として行き、悠々として止まり。面白き物を見、愉快なる話を聽き、支那其物と、何等の隔てなく、赤裸々に接觸するを得る以て、自から滿足せざる可らず。

然も是れ唯だ予の期待にして、固より遺憾なく、之を達し得たりと云ふにあらず。されど百聞一見に若かずとの諺は、此遊に於いて、今更らの如く、其の真理なるを感得せり。予は眼前に支那其物を見、電報や、郵信や、新聞や、其他に於て、聞き得たる支那と、非常の差別あるを感得したり。予は敢て感得と云ふ、推定と云はず。又た觀察と云はず。

されば本文の記する所は、此の感得したる或物に就て、有りの儘に、其の若干を語るに過ぎず。既に感得と云ふ、證跡もなければ、根據もなし。材料もなければ、理由もなし。唯だ支那の事物に就て、幾許の智識と、興味とを有する旅客が、何となく斯の如き感興を、催ほしたりと云ふに過ぎず。予は此の如き漫然たる記錄が、果して讀者に如何なる利益を、與へ得可き乎を知らず。乃ち知らざるも、天下復た同好の士なしとせず。一方に予の如き妄言者あれば、他方には亦た妄聽者なしとも限らざる也。

どうして
布施生譯
三十九

『それにも係はらず女中頭は其娘は迫られてと無ければ出る筈がないと言張るのです。そしてさう言ふ根據を云ふのは其娘の性質や擧動を知抜いてゐる所から推斷したものと見る外は無い。成程言はれてみれば怨恨が引裂けてゐたり建築工事の屋根の上に血の痕があつたりするから或はさうかとも思へない事は有りません。其外調査がついた事と謂へば、第一鉛筆削用の小刀が一挺二階下の中庭の草原に落ちてゐました。此小刀でつけた疵から傷の血がとぼれたのに相違ない。小刀の柄は背貝入で二階の机の抽斗に這入つてゐたものらしい。そして其纖細な點から見て確かに其小間使の物だと思はれます。男ならいくら惡漢に刄向ふ爲にもせよ此樣な道具を手にする筈はありませんからね、惡漢が二人で二人共男だと云ふのは前夜話を聞いた女中頭の主張なのです。『處で御主人、とう詮索してみれば誰だつて好奇の念を湧かさずには居られますまい、殊更其邸の主人が其處へ這入つて來ながら普通の人なら誰でも吃驚する處を一向そんな風も見せず、其癖女中頭の方はいやに主人の顏を見るのを避けて、主人が往つて仕舞ふと安心の息をつくのです』殴けば武烈氏が鋭い其眼を自分に注いだのも構はず言葉を續けて『こうなると誰でも好奇心が湧きますよ、更らに自然詮索してゆくとどうしやう其邸の主人と云ふのは其娘が出て往つたと丁度同じ時刻に宅に出てゐたのです、加之に其娘が戸口を脱れて戸外から這入る心算で歸つてくると主人は門の扉から戸外を覗いてゐたと言ひますぜ、さうです御主人、娘はそれを見ると恐れて台から再び追手の惡漢の手の中に飛込んだのです。』『何か仰有いましたか』殴は左の靴先にむつと目をとめながら不意に言葉を斷絶つた。『なあに何も言ひませんよ、さあ/\續きを』武烈氏は何げなく言つた。此の今の言葉は聊かこたへたらしかつた、殴は知らぬ顏で語を揃けて、詮索してみるとまだ多少分つた事がございます、第一其主人と云ふのは女仲間にも一寸評判の好い方ではない。とても資格を備へて居りながら決して女と交際しない。暇があると貧民窟をうろつき歩いて一度ならず貧乏人の娘對手に餞をする、つい先達て所帶をしてゐたのは乾度邸から出奔したあの娘に相違ありません、が其娘は――『武烈氏は言葉も嚴かに『お待ちなさい。そりや違よ。そんな事は有りません』『どうして有りません』『君が云ふ其娘は黄金色の髪の毛だつた、宅にゐた小間使はさうぢや無かつた』『なる程、いや御主人、貴下はお小間使の事などは一向お氣につかなかつた筈ですが、顏や髪の毛なんかは御承知がないと云ふ事でしたがね』『いや其小間使の髪の毛が黄金色だつたら是非共私の目に留つた筈なのぢや』探偵長はにやりとして紙入をあけた。そして中から黄金色成す髪の毛を幾筋か取出して主人の眼前に突附けながら『ほら之が其髪の毛の見本です、兩娘の髪の毛と同樣に赤い』武烈氏は身を屈めて頭に聞けられた娘の髪の毛と同一物を言ひ當があつて其上貴下が先日ふ手先でそれを抓上げた『何處でお手に入つたかな』言ひながら懐かしさに耐へぬやうに胸にしかと抱緊めた『お小間使が出奔の前夜まで使つてゐた櫛に附てゐたのです』『隣と等しく武烈氏は急いで抱緊めてゐた其髪の毛を拂捨てた

○雜誌抄

名、利、權進化(坐道)

某師は水戸の部落總支部へ行つたとき教育會と青年會の爲に講話をなして曰く、教育者それ自身の爲めに名、利、權の進化と云ふ事を説かれた。『名、利、權の進化』とは一口に云へば虚名を省みずして、行に努むれば、名は自ら來るのである。有益なる事をなし行きさへすれば、利益も權力も隨つて生ずる。力なくして徒らに名に奔れ利に奔り權を爭ふは憐むべき卑むべき例である。『それ丈の事をなしなくつて徒らに不相當の俸給を受けて居るものは即ち借金持である。その借金をせうと思はないものは即ち謙抑である』と。斯くて衣食住に就ても足るを知るべきを説かれた

最新刊

書名	著者	定價
春の海	霞亭	一、三〇
紅灘集	燈花小史	一、六〇
ある僧の奇蹟	田山花袋著	九五
人及び藝術家としての國木田獨歩		六〇
歐洲戰爭と民族主義	[illegible]	八〇
小說よりも面白き事實物語奇話哀話	田中貢太郎	一、五〇
浪六傑作集 第一卷	泰陽堂	一、二〇
新渡航法	永田稠編	一、〇〇
書翰文 第一卷 一握の雲	田山花袋	五〇
同 第二卷 旅の上	正宗白鳥	五〇
同 第三卷 秋の歌	長田幹彥	五〇
自修英語速成	日本學術速成會編	一、二〇
新兵受驗文 第四卷 夜と空	谷崎精二	五〇
農村教育	寺岡千代藏著	四五
和歌流式便覽	小野和歌編	七〇
二人探偵	長谷香風譯	七五
山國の怪	岡本綺堂著	七五
二百六十五偉人名士の日記	西宮藤朝著	九五
常識百話と生活の趣味	遠藤隆吉著	一、二〇
大正の靑年と尾崎行雄	岡井護堂著	一、三〇

大阪屋號書店

購買入札
大豆八百八拾石外六點
右購買ス詳細ハ大正七年壹月拾四日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ
朝鮮總督府

資本金壹百萬圓
諸積立金二十七萬餘圓
株式會社 朝鮮商業銀行
京城南大門通一丁目 電話五五八番 振替京城一六三四番
一般銀行業
倉庫業
銀行長 趙鎭泰
支配人 豊田明敬
南大門支店　平澤支店
本町支店　群山支店
仁川支店　東大門出張所

今回中根商會を以て朝鮮全道の代理店たらしめ候間何卒當社同樣御引立被下度奉希上候
東京鋼機株式會社

當商會儀今回東京鋼機株式會社の直輸入及取扱に係る鑛山用八角鋼類一切を朝鮮全道代理販賣可仕候間本社同樣の御引立を蒙り度偏に奉希上候
當分の間每月五噸內外より入荷不致候に付多數御入用之方税濟品及保税品とも豫約被下度奉願上候

在庫品大略
汽罐各種
鑛山用機械各種
捲揚機各種
排水ポンプ
坑內用押上ポンプ
瓦斯及石油機關
動力モーター
八吋以下の瓦斯管
ベルトシャフト類
革車類

販賣部 京城南大門通五 電話一〇四番
製作工場 岡崎町 電話二五六番
中根商會

謹賀新年

更に大飛躍を試みんとする
福助足袋

希望と幸福に充てる新年を迎へ御同慶至極に奉存候
今や產額信用販路に於て名實共に日本一に達し健全なる發展を爲しつゝあるは偏に御愛顧諸君の賜に外ならずと眞に感謝に堪へざる所に御座候今後尚益々誠心誠意を以て製造家の本分を盡し御鴻恩の萬分一に酬い奉るべき覺悟に御座候
特に本年は顧客諸君の御卓見と弊店數十年來の經驗とに依り綿密なる計畫を樹立し更に活躍一番各位多年の御眷顧に酬い奉らんことを期し可申候　恐惶謹言

大正七年一月
合名會社 福助足袋本店 堺市市町西二丁
東京營業所 東京市日本橋區田所町
京都營業所 京都市四條富小路

○帝國遣艦經過と今後の方針
英米兩國も軍艦派遣か

帝國政府は愈十二日を以て某軍艦を浦鹽に入港せしめ我居留民を保護せしむる事とせるが浦鹽の形勢は既に大亂を來せる次第に非ざれども事件突發の後軍艦を派遣するとせば航程四、五日を要し火急の間に合はざる虞あり然も十二月三十一日在浦港領事團は日本の軍艦

▲派遣を必要 とする旨決議し帝國總領事を通じて其の旨政府に要求し居り且つ在留民よりも同樣の希望頻々たる有樣なるを以て帝國政府も茲に熟考の結果軍艦を外國に派遣し置くは之平時任務にして陸兵と異り別に國際上何等の支障無き次第なるを以て極東に於ける帝國の地位上の責任より軍艦を派遣するに決し該派遣軍艦は碎氷設備ある某船を伴ひ所屬軍港を拔錨して浦港に向ひ十二日午前九時同港に無事入港したるが狀況如何に依りては

▲陸戰隊を組織 上陸せしめ必要なる行動に出づる事ある可きは勿論なり而して其後同艦よりの報告に依れば浦港は今猶は三四尺の結氷あるに過ぎず碎氷船を使用するに至らざりしも市中は警備完全にして主なる銀行店舖は掠奪を慮りて店舖を閉鎖し時々其には過激派と穩和派との間に衝突起る可しとて人心恟々たるを以て同艦は豫定錨地に在りて領事團に對し

▲絶えず連絡 を執り居れりと今回同港に在る我國軍艦は過般練習艦として長崎に寄港せし巡洋艦アリヨール以外水雷艇若干並に破損せる潛水艇一隻にして帝國政府は場合に依りては今後猶帝國軍艦をして同港に入港せしむる可き準備あり又英國も軍艦一隻を同港に派遣す可く香港を拔錨せしめ更に米艦ブルツクリンも永く橫濱に寄港し居れるが或は同港に向ふやも知れずと(東京特電)

○過激派掠奪計畫

過激派無線電報 暴兵は來る十四日即ち舊曆一月一日を以て一般資產階級に金品の提出を强請し之を機會に大掠奪を爲さんとするものゝ如く市民は哥薩克兵團を市に入らしめたり(浦鹽電報)

○對小露宣戰
▽レーニン政府布告 ＝兩軍近く衝突か

ウクライナに對しレーニン政府は宣戰を布告したるが近くキエフを中心として兩軍の一大衝突あるべく既に兩軍は卅三露里の間に迫れるが西南部羅馬尼戰線は總てウクライナに加擔して氣勢を添へウクライナ境界線は嚴重に閉鎖されたり尚ウクライナ政府は聯合國に代表者を置き先づ巴里に一特使を派遣し佛國亦プエンサ大佐をウクライナに派遣したり(哈爾賓特電)

○擧つて露國提議に反對
敵國側代表者の態度

アムステルダム來電＝ブレスト、リトウスクに於る講和委員會議に於て墺國外相ツエルニン伯は又曰く『若し露西亞が四國協商側の代表者と同樣の意嚮を有するならば其の結果は萬事好都合なるべし若し然らずんば萬事必然の成行を取り戰爭の責任は專ら露西亞委員に歸すべし』とタラアートパシヤ及びボポフ兩氏も此の意見に贊同せり、次ぎにボポフ將軍は曰く『予は予の手許に露國政府と軍隊司令官の代表者が證明したる數通の無線電信提議書を所持し居れり、此の提議電報は若干我軍隊に對し[illegible]的の特質を有し且つ疑ひもなく露[illegible]兩軍の間に協定されし休戰[illegible]神に背くものなり、軍隊總司令官として予は最も强硬に此の提議の形式內容に反對す』と其他の中歐同盟國側代表者も露國代表者トロツキー氏の提議に反對の意を表せり斯くて會議は十日中止せられたり(倫敦電報)

○中產階級を呪咀

露國過激派總司令官クリレンコ氏は宣言書を發して『露西亞共和制は四面敵に圍まれたり』と云ひ露西亞、獨逸、英國及び佛國の中產階級に對する眞正戰爭を稱へ人民に對し此の目的の爲めに軍隊を編成すべしと傳へたり(倫敦電報)

○獨逸宰相辯駁せん
▽英、米の戰爭目的に對し

アムステルダム來電＝獨逸宰相ヘルトリング伯は來る月曜日(一月十四日)獨逸議會に於て米國大統領ウイルソン氏の教書並に英國首相ロイドジョージ氏の演說に對し答ふる所あるべし(倫敦電報)

□御慰問使
朝鮮へ御差遣

天皇陛下には寒氣の砌朝鮮駐劄軍各部隊將卒御慰問且つ狀況視察の爲近日侍從武官を御差遣遊ばさるべしと承はる(東京特電)

○新警務部長 新任慶南警務部長中村孝三郞少佐は十三日午後四時著任せり佐々木道長官以下出迎へたり(晉州特電)

◉特別任用令改正要旨
內地人郡守任用の途開かる 工藤總務課長談

九日勅令第五號を以て朝鮮總督府地方職員特別任用令中改正の件を公布されしが其の改正要旨は(一)從來府尹の特別任用は三年以上朝鮮總督府、道、府、郡等の事務に從事し判任官三級俸以上の俸給を受くる者の中より文官高等試驗委員の詮衡を經て任用することゝ成り居たるを今回

▲其在職年數 を五年に延長し三級俸を二級俸に引上げたると新たに警察官登用の途を開きたるもの(二)府事務官特別任用の件は從來特別任用令中に規程無く他の法令中に包括されたるものを這の改正に依りて任用令中に其位置を與へたるもの(三)郡守及び島司は五年以上朝鮮總督府、道、府、郡、島若は警察官署の事務に從事し現に其職に在り判任官四級俸以上の俸給を受くる者の中より詮衡任用することゝ改められたるが右は

▲島司任用の 範圍を廣め尚新たに內地人を郡守に任用するの途を開きたるもの從來郡守は鮮人に限られたるも昨年十月面制實施され指定面々長は內地人を選任することゝ成り且つ面に事業能力を附與されたる結果指定面を管轄する郡中或は

▲內地人郡守 を置くの必要起るべきを察して改正を加へられたるものなり尤も指定面を管轄する郡と雖全部內地人郡守を置かんとするに非ず原則としては從來の通り朝鮮人郡守を任用し內地人郡守は極めて少數に限らるゝ方針なり

○邊境の戍りを一巡して
立花將軍歸京車中談

五十餘日間國境に雪中長途の旅行を試み十三日夜無事歸任せる立花第十九師團長を車中に訪へば將軍意氣軒昂語るらく、今回は鴨綠江上流方面に最初這入つて長白山麓から

▲鴨綠江沿岸一帶 を一巡して歸つて來たと言へば先づ一言にして盡して居る譯だ丁度昨年十一月二十七日に當地を出てから約五十日餘の雪中旅行さ殊に國境地方では宿所と言つても無し憲兵の家から朝鮮人の民家やらに宿泊し疲れたと言ふよりも寧ろ苦しかつたよ併し其間又言ふべからざる

▲情趣のあつた事 は爭はれぬ所である、あの邊一番は我輩が行つた時には氷上下三十度以下の寒威で總ての水分は氷結し赤い馬でも黑い馬でも皆白馬の姿に變り、口、頰髯堅くなつて仕舞つて宿屋に著いてから一時間位は物も言ふ事すら出來ない有樣だつた併し自分達が行くと言ふ事は豫め通知してあつたので守備隊と言はず官民と言はず憲兵分隊と言はず

▲總てが衷心から 歡迎し總ての點に於て便宜を計つて呉れた譯である共れでなければあの邊の旅行としたらどれ程困難するか判らない所で米一升四十錢酒一升一圓何十錢と言ふ樣な有樣で單に日用品のみならず總ての物資が缺乏して居ると言はねばならぬ彼方の守備隊等では先づ每日

▲味噌汁と澤庵丈 けしか食する事は出來ない其れに醫者け三十里四十里と掛けて行かなければ居ないし實際不自由をして居るよ守備隊や憲兵隊等に在つても醫官やなんかは置いてない唯だ代用醫官と言ふものがあるが之は風を引けばアンチピリンを與へる程の知識しか有して居ないのである而かも此の激寒と不自由の中に國境守備の任に當つて居る士卒は

▲殆んど總て健在 で病氣に罹つて居るものはないそして滿浦鎭邊りの守備隊では士卒一人の體重平均十六貫何百と言ふ程極めて良好な健康狀態を保持し併せて彼等が不屈堅忍の精神は確かに推賞するに足るものがある我輩の訪問等に對して彼等は克く此の零點下三十度の激寒中に在りながら外套を用ひず防寒靴を用ひずして廣汎なる自己の管內を案內し

▲雪中橇の後押し 等を爲し得る覇氣を有して居た。吾輩は大正二年の七月に今回と同じ旅程を辿つた事がある即ち今度は二回目で豆滿江にも二回の旅行を試みた旅の苦しみは冬季雪中が甚しけれど四邊の風光に至つては雪中の旅行に若くものは無い僕等は今度の旅行で到底他人の味ふべからざる風趣を味ふ事が出來たと共に

▲大いに詩趣を喚 るものがあつた氷山雪谿の嵯峨たる所險峻絕壁の氷河に臨み味ふべからざる詩趣があるよ……

◉戰時の米國及び英國
米兵歐洲戰場の大增派如何＝驚く可き潜航艇と募兵難と＝英國の巨人ロイド、ジヨージ氏＝英國銀行界の趨向＝戰爭天候

前銀營業局長 吉田節太郞氏談

[illegible]十一月[illegible]米京を發し[illegible]一ケ月許りゐて其間倫敦に約六箇月許りゐて巴里及びリオンを訪ひ朝した、米國[illegible]本腰に相違はない[illegible]電報が傳へてゐる大

▲歐洲戰場派遣 と云ふ事でも米國の當局者は十分確信して居る事であらう、既に之れを事實問題として見て如何、現に聞く所によると一兵の增遣には船腹が約十二噸を要すると云ふ、乃で百萬の兵を歐洲に送るとして如何であらう乎、現在米國の歐洲派遣兵は勿論精確な數は分らぬけれど十萬乃至二十萬だらうと云ふ觀測が多い、果して然らば僅々八九十萬の兵力を增派せねばならぬ、從つて船腹は約一千萬噸を要する譯である、所が米國の全船舶を擧げても七百萬噸しかないと云ふから、此上の大增兵は單に輸送力より見るも容易でない加之

▲獨逸潜航艇 は今後戰爭が續けば愈々猖獗を逞しくするらしく、既に航行攻擊の點に於て完全な一千噸級の潜航艇が建造されたと云ふから勞々大西洋の運送船は非常に脅かさるゝ、更に以上の障碍は百歩を讓つて無事とするも、米兵の增募と云ふ事は亦至難らしい。切りに今でも戰爭の模型を作つたり婦人を使つたりして米國の各地に『國家のため軍人たらん事を求む』と云ふ風の募兵廣告を政府でしてゐるが、あの調子で集つた兵を相當に訓練して戰場に立たせやうとする事は餘程骨であらう。尤も予の便乘した英國の汽船セントルイス號には米國富豪の息子で自ら志願して歐洲戰場の自動車隊などに從がひ

▲足を折られ 手を挫いたと云ふ勇敢な人も見かけたから思つた程でないかも知れぬ、英國では何と云つても戰時內閣の首相ロイド、ジヨージ氏の事を第一に語らねばならぬ、ロイド、ジヨージは先づ獨帝カイザーに對立せる世界的の偉人で、非常に意志の强い人である、戰時英國の內治に外交に超凡の精力を傾け四六時中活動を續けてゐるが、其の偉大な傑出せる行動は予等の如き遊子にも聯合側各國の頭目として誠に頼母しげに見れた、戰時の英國銀行界[illegible]

▲戰後の對策 として消極[illegible]より積極的に出でやうと云ふ[illegible]が見られる、英國銀行の態度は素より[illegible]合同の少なくないのは[illegible]と云ふ事も含まれて[illegible]利便と[illegible]の基礎を鞏固にし自力を張り[illegible]な世界を乘切つて行かうと云ふ計畫から多く出てゐるやうである、從來英國の銀行は少數の例外を除いて多く國內に蟠居して對外活動を積極的にやらぬと云ふ風があつたけれど、それでは今後世界の趨勢に伴はないと云ふので西班牙とか云ふ國に密接なる關係のある列强に支店を增設する計畫を大に樹て既に實行に取掛り居れば

▲準備調査 に忙しいやうである、朝して見ると天氣に變が多い、寒かつたり馬鹿に雪が降つたりする。然し此の天氣の異變は世界的で『戰爭天候』と云ふ熟語が英國に出來てゐる、英國でも去年の夏は可なり涼しくて暑い夏服は著れない位、鳥渡避暑地にも出かけて見たが何しろ夏の服裝では寒くて居れなかつた、或る科學者は戰場と氣流掛の關係から此らしく戰爭天候の說明をして居る者もあつたが、現に此の詮索は姑く措くも、世界の異變はどうも戰爭の故らしい

◉王世子殿下
本日の御動靜

李王世子殿下は十四日午前十時三十分咸寧殿に伺候同四十五分德壽宮御出門同十一時總督官邸に長谷川總督を訪問せられ兩陛下に御機嫌伺の電報を御依賴あり同十一時二十分頃總督官邸御發、昌德宮に參殿樂善齋內殿に參入あり李王殿下に御對顏相成るべき筈なり夫れより李王殿下は世子殿下の爲に午後零時三十分宣政殿に於て午餐會を催され兩宮勅任官、王世子附屬員、贊侍、武官等之に陪參する由なり續つて午後二時仁政殿觀覽、賞勳祠なる李堈公邸に立寄られ午後三時三十分頃德壽宮石造殿に御歸還あり同四時同殿下の接見室に於て長谷川總督山縣政務總監及び松川軍司令官、立花師團長同三十分御親戚貴族李王職員に接見せられ午後六時より御親戚貴族並に李王職奏任官以上の人々を招かれ石造殿內に於て晩餐の御催しある筈なり

◉立花將軍歸任

昨年十一月廿七日以來長白山麓より鴨綠江沿岸に五十餘日の雪中旅行を了せる立花師團長は十三日午後七時二十五分南大門驛著列車にて歸任せり

◉趙少尉歸京

李王世子殿下の御學友たる趙子爵令嗣陸軍少尉趙大鎬氏は殿下御一行と共に十三日夜入京永樂町の自邸に入れり

人事消息

▲宮崎佳太郞氏(群山 實業家) 十三日夜入京不知火旅館へ
▲岡田三郞氏(東京建物會社天津支店長) 同山本旅館へ
▲石原孝治氏(朝鮮郵船釜山支店長) 同浦尾旅館へ
▲掛井佐治氏 同朝鮮ホテルへ
▲宮崎謙平氏(同神戶出張所長) 同上
▲佐藤村四郞氏(同東京支店長) 同上
▲吉田節太郞氏(前銀營業局長) 同上

露國百種

露都の秩序紊亂と來ては聞けば聞く程實にお話にならぬらしい▲現在露國でレーニン一派の犧牲となつて居る者は主として立憲民主黨員であつて▲監禁されて居るが其の重なる人々は例のペトロパウロフスク要塞に收容されて居る▲コノワーロフ、テレシチエンコ、スミルノフ、ベルナチキイ、キシキン、カルタシエフ君等の前大臣や名士である▲併し收監されて居る是等の人々は誰れ一人として不平を漏らす者もなく何れも口を緘して居ると云ふ▲而し胸の內では『今に見ろ過激派なんぞ忽ち逐ひ散らして了うから』との確信に充ち滿ちて居るからだとの事であるが▲流石にテレシチエンコ君は老年の身に注いたがつたりコノワーロフ君は外套一枚の夜寒を頻りに喞つたりして居る相だ▲其れから此の要塞を守備して居るのは例の赤衞軍で無智の勞働者や農民やの集合體だからたまらない▲亂暴狼藉至らざるなく先頃は帝國銀行を占領した露都の各酒庫を掠奪したり强談赤衞軍とは云ふもの丶彼等の服裝と來ても滅茶々々であつて▲軍服もあれば鳥打帽の勞働服めしいのもあり何とも付かぬ服裝其儀なのもある▲生きた百鬼夜行の圖である▲目下の露都赤衞軍の事であるとか

二日目手捌き

[illegible]

■兩國に大關 は當日の好[illegible]

■源氏山に大鳴門 [illegible]

■駒泉に黑瀨川 [illegible]

■佐々木長官入京 [illegible]

軍隊毛布

今秋米本社がロシア軍隊防寒用毛布の約束違を提供せしに非常なる好評にて御注文の全部に應じ兼甚だ御氣の毒なる方も有之候故今回右方々の御滿足を得る爲め其御禮の爲更に五千組賣出す事と致し大判二枚組一組(氣瓶)原價段で二圓九十五錢で御注文に應ず急(ハガキ)で申込あれ受付順に引換郵便で發送す一人にて數間の注文あるを見ても如何に品質の善きかが分る普通の店では到底五圓以下で買ね賃品である

東京織物仲繼店

責任附有給外事係を招聘す

京城太平通二丁目(大漢門前)
日本公債株式會社 朝鮮支部
電話長一六〇二番

贊化病院

京城明治町一丁目 電話二四〇番
內科 小兒科 入院隨意
每日五名を限り無料施療す
醫學博士 古城憲治
岡山醫學士 上野亮藏

至急廣告

弊店從來より使用の商標(圖)と同一の記號を使用する取引所仲買店有之候へ共弊店とは全然關係無之候に付此段特に廣告候也

大正七年一月十二日
清酒釀造業 米穀貿易商
仁川本町四丁目 吉金喜三郞商店
電話長七六四番 電署(ヨ)又八(ヨシ)番
振替口座二七七九番

移轉御披露

謹啓時下嚴寒の砌愈々御清穆奉賀候陳者弊店儀久敷永樂町二丁目に於て營業罷在候處御蔭を以て日々盛大に赴き候は全く御得意樣各位の御愛顧の致す處と深く奉感謝候今回業務擴張の爲本町二丁目中村砂糖店跡に移轉新に砂糖、粉類、鰹節等の營業品目を加へ一大勉强可仕候間何卒倍舊御引立の程奉懇願候 敬白

京城本町二丁目(電話八五番)
銘茶、砂糖 粉類、鰹節 卸小賣
菊園 井上藤兵衛

移轉御披露の爲め一月中お茶に限り現金賣一割引可致候

資本金壹千萬圓

頭取 安田善三郞
株式會社 百三十銀行 京城支店
京城本町壹丁目 電話長五八番 一九三四番 振替貯金京城二

銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

恩給年金 [illegible] 大阪[illegible]
京日案內 [illegible] 254
寶 杉本寶店 [illegible] 253
寫眞切手入用 京城電話三三九番 256
小兒入用 [illegible] 京城本町一丁目 255
恩給年金即時 山口屋 [illegible]
年金恩給 江州屋本店 [illegible] 212

……と上手投げを打たんと半身になる所を透さず押し切り若の勝■綾川に若島は左四つ若の吊らんとするを外掛けに浴せ倒して綾の勝■龍

小常陸の突出す出鼻を王左手に去なして叩けば小常陸バツタリ前に落つ■岩木山に明は岩木突き掛け明が堪へて取らんとするを透さず突き出し岩木の勝■釋迦ケ嶽に石

……突張りに……高股砕けて既に危なかりしを殘して反對に突張り左手に渡込んで勝■達の矢に紅葉川は激しく突き合ひ遂再三叩きしが紅葉能く殘して突き立て突き立て遂逸したり

……大いに狼狽しつゝ右手を大門の首に捲いて打遣らんとしたるが大門に捲へて猶勢ひ込んで寄り立て押す刹那踏み越せる爲め惜しき勝星を

……右を差さんとするを潮差させず鉋く迄寄ると見せ兩の堪ふる所を強引に打つたる下手投見事に極り潮の勝は大鳴■栃木山に巽砂石は巽砂の懷に突いて押すを

……に反らして廻しつゝ左手に踊けば鳴門掴みを食つて土俵の外に飛び出し源氏の勝は陽采■大錦に錦島はガツキと左四ッ互ひに右上手を引いて呼吸を測る内大錦一捻り逆鉾に

……寄り切る■八甲山に瀬川は右三所攻めに行くを上手投■の勝■一湊に鬼鹿毛は右寄るを打遣つて一の勝■四ッ鬼の寄るを打遣つて……彌高山は突き合ひ突き合ひ

■常ノ花に伊勢濱は右四ッ常吊り身に寄り進み伊勢が外掛けに防ぐを右矢筈で突き放し常の勝■宮城山に鳳は右四ッ吊り出

●八年振りに　＝王世子殿下朝鮮の土を踏せらる＝　（十三日南大門驛に於て特派寫眞班撮影）

◉李王世子殿下　久々の御歸京

＝抑へ切れぬ歡を包まれて御懷かしき德壽宮へ＝

李王世子殿下には十三日午後九時南大門驛著の御豫定なりしを以て南大門驛前より同停車場前より南大門通に至る間は鮮人側民間各團體及び内地人側各團體の御出迎者を以て數町の間は道路の兩側に立錐の餘地なきまで人垣を築きたるが斯て殿下御一行を乘せ參らせたる

■特別增結車 は普通列車に牽引せられて豫定の時刻より五分遲れて午後九時五分南大門驛に到著したり此の特別列車は殿下御一行並びに武藤事務官以下の李王職員を乘せたる貴賓車及び一等食堂車並びに御出迎者を乘せたる一二等車の三輛より成るものにて構内貴賓室の南方數間の箇所にて停りたるが

同時に長谷川總督 山縣政務總監及び松川軍司令官、立花師團長は車前に殿下を御出迎ひ申し大れより殿下は抑へんとして抑へ切れぬ御歡びの色を包まれて、李堈公殿下並びに各隨員及び昌德宮御出迎への李武官、德壽宮御出迎の侍從等を隨へられ是より先プラツトフオームに御出迎へ申上げゐたる朝鮮貴族、文武高等官、外國領事、李王職員、赤愛府の職員及び特別社員役員、在郷軍人會員、府協議員、民間代表者、各宗教團體、各新聞記者の堵列せる

■前を御一巡 せられ一々懇ろに擧手の御挨拶ありたるが就中婦人席に在りたる元の英語御教師ジヨーリー女史及び其の令孃に對しては久々振の御對顏とて特に握手を賜へるを御見受け申したり斯くて殿下は隨員を隨へ貴賓室に於て長谷川總督、山縣政務總監、松川軍司令官、立花師團長を接見せられ御挨拶ありたる後

馬車を驅て德壽宮 に向はせられたり行列は騎馬巡査二騎を先驅に立て次に殿下の御馬車に金武官陪乘し其後より騎馬憲兵一騎騎馬巡査二騎之に隨ひ次に閔長官、李副將、金事務官の同乘せる馬車及び高事務官、小山典醫、武田御用掛等の同乘せる馬車並びに兩宮御使及び李王職御出迎の者を乘せたる自動車馬車何れも之に次ぎ列次を整へて午後九時二十

▲殿下に扈從しまつりて
◇天恩の優渥に感泣しつゝ◇
＝閔李王職長官談＝

務職上し今回王世子殿下に扈從して歸鮮の途にある閔李王職長官は車中にて謹りて曰く『今回の御歸鮮は實に明治四十四年御母君嚴妃薨去以來初めての事にて殿下に於ても非常なる御喜びである殿下には昨年十月御成年に達し十二月陸軍少尉に任官せられ兼々の御慶事あり今回は又兩殿下に御對面の爲め

◇久し振にて御歸鮮 さるゝ事は實に李王家の御慶事にして吾々一同の歡喜措く處を知らざると同時に益々天恩の優渥に感泣する次第である殿下には去る十日午前十一時三十分東京驛發十一日桃山御陵御參拜の後下關迄御旅行の御途次に御休養せられたのみで京城迄御疲勞は無きかと私に案じまつりたるが十年近く……

▲先帝陛下在まさば
◇如何ばかり御欣びであらうぞ◇
手を握り背を撫でて立派な體格ぢやと父君殿下嬉し涙に咽ばる

が南大門より左折して德壽宮に入られたるが南大門より大漢門に至る迄も各内鮮人御出迎者の

■道路兩側に 蝟集するもの夥だしく殊に各團體の樹てたる高張提灯及び手提お灯は眩ゆき許りに照り輝き取別け御道筋の正面に當れる我が京城日報社は特に燦々たるイルミネーションを點じ奉迎の誠意を表せしため嫣々たる裝飾の光りは爛として晝を欺き一段の盛觀を添へたるが斯くて殿下の御馬車は午後九時三十五分德壽宮大漢門に御安著相成りたり

◎絶ねて久しき德壽宮の御對顏◎

十三日夜御歸京相成りし李王世子殿下は九時三十分德壽宮御著直に玄關より咸寧殿西側李太王殿下御寢室なる温突に入らせられ李太王李王兩殿下との御對面ありたり此時世子殿下には兩殿下の前に進まれ朝鮮式の禮を交されたる日本式に御坐相成りたるに李太王殿下には絶ねて久しき御對顏に歡びの色も涙に濡れつゝ

つかつかと少尉殿下の傍に走り寄られ 軍服の袖を上下に撫でられながら『此れが少尉の軍服であるか……此の立派な姿を先帝陛下が御覽遊ばされたならば什なに御喜びであらう伊藤公が在世ならば嘸泣て喜こんで呉れたであらう……』と御仰せられて『立て見よ』と起立を求められ手を握りて背を撫でられつゝ『オヽ立派な體格ぢや、大きくなつた』と御嘆賞あるなど流石に眼に入れても痛からぬ御父子の情を盡されたるには傍の見る眼もおのづから内こそと拜察されてそゞろ嬉し涙に咽ばれたり李太王殿下は座に復られて王職に酒に

カステイラを出され小さく千切つて は世子殿下に進められつゝ『御身は内地生活が永いから最早唐菓などのやうな淡いものは口に食べられないであらう』『内地に居つて何が一番欲しかつたか』など何くれとなく御問ひありたるに世子殿下は『片肉が食べたう御座いました』と御答へあり李太王殿下は『オヽさうであつたらう』と膝を進められ『お前は幼い時に蕎麥に片肉を入れて喰べるのが好であつた』と仰せられてありし昔の幼姿を御追想の御模樣なりしが稍ありて『東京出發の際何故

東宮殿下にお目 に掛つて來なかつたか』『勉強中はどうであつたか』『海上恙なかつたさうであるが船は風が無ければ揺れぬものか』『船中の設備はどうか』など慈愛溢るゝ御質問に世子殿下も叮嚀なる御答へを申上げ約一時間の御對顏の後十時四十分德弘殿より石造殿に至る間の提灯の堵列の中を馬車を驅つて石造殿に入らせられたり。因に李太王殿下には世子

殿下の朝鮮服姿 を見ま欲しく思召されてか數日前より朝鮮服を新調致されたるが世子殿下の御體に合はざりしより十四日中に背丈合せて至急仕立て上ぐるやう女官にお命じ相成りたれば世子殿下は十四日午後三時頃德弘殿に成らせられ御用に相成るやに承る

◇軍隊生活に鍛錬されたる御體質であるから元氣益々御旺んで此の御疲勞も無く御見受け申すは吾等の深く喜ぶ處である十二日夜は玄界灘も極めて穩かで殿下は九時過ぎ寢室に入らせられ今朝六時迄御熟睡あり御朝餐は船内にて召され今……道……にて中食を……られたは……

▲南大門まで
車中の殿下
懷舊談に耽る

……に御見送りの禮に……世子殿下には……相成りし……光に……したる佐々木慶尚南道長官に……種々の御質問ありたるが……は……に御渡鮮の際の……は……を一新し……みならず……の一つ……揭げて殿下の御歸鮮を迎ふるに……

[illegible]

……の迎送あり釜山にては……慶山驛には……鈴木慶北道長官の御出迎への……大邱まで御同乘申上げたるが大邱驛に於ては大邱各官衙職員、民間代表者及び各學校生徒數千名の……迎へありてさしもに廣きプラツトフオームも……

◎八を以て……

……あかるなき……の迎送……

東海道沿線

……深かつた……御……せられた……大田よりは……忠清南道……は……

……ては……迎へあれば車中更らに賑はひて殿……

……明るき……より……に李堈公殿下……使金敎光氏李堈公殿下御使黒崎美智雄氏以下貴族數名……京城驛に至れば長谷川總督……に御著き相成りたり斯……より食堂に入られて……

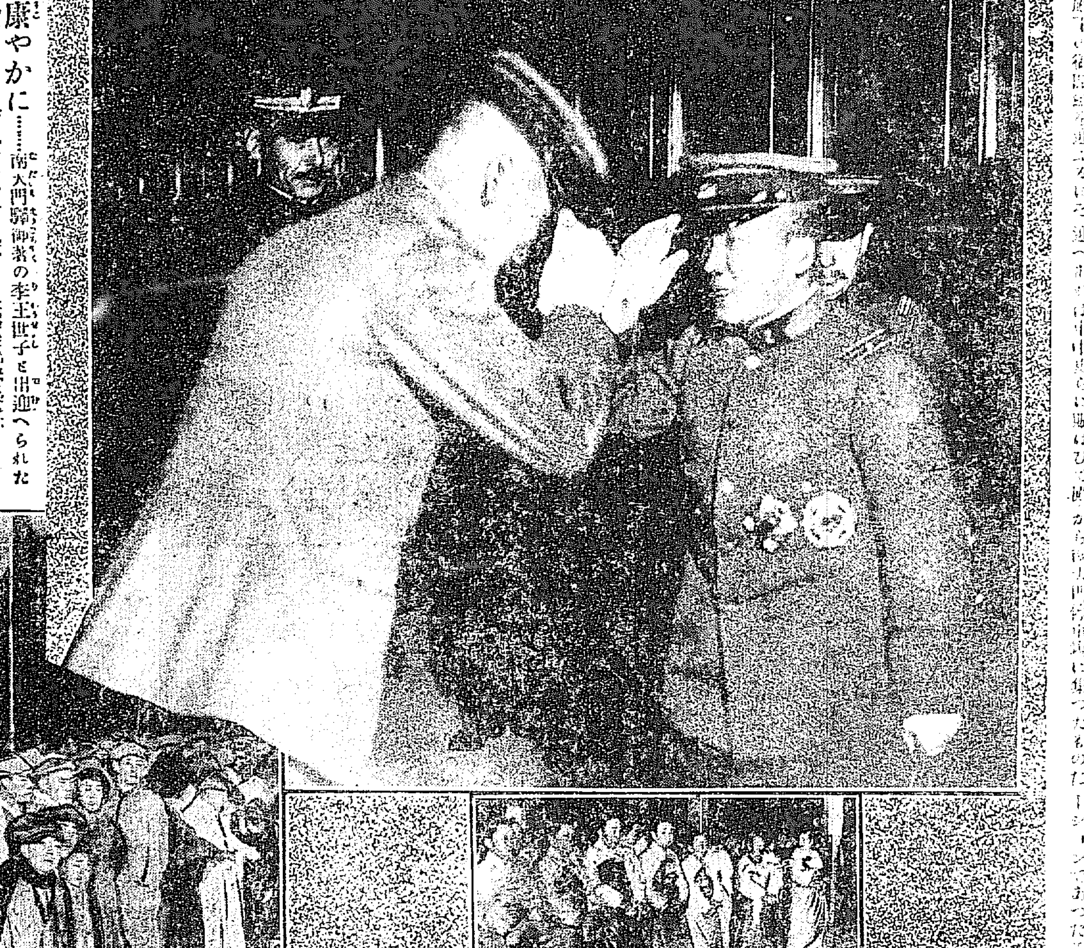
◎……德壽宮の……

……の時に南大門驛の……は……下官民數千名の御出迎へ……御下車相成りたり（早川特派員）

▲雜觀
王世子御歸京の夜

……の市民と……殿下の……に朝鮮人側では八年……捲りに御歸京の王世子殿下の御……と……拜せんと……の……から……ての……つたのが……少くなかつた……の……て……を……から南大門停車場に集つたものだ

▲鐘路方面から來る電車が南大門停車場前の停留所で吐き出した奉迎者は無慮數千人にも達したであらう▲どの電車もどの電車も溢るゝばかりの乘客で儲かるものは電車會社だなと云つて居つたものもあつた▲午後八時半頃になると南大門外から停車場まで兩側は殆ど人垣で築いたやうだつた▲停車場前には大正親睦會を初めとして、親、鍾路、南關總…、朝鮮酒造組合、金銀商、…觀…、物組合、陶器組合、土地建物仲介組合、妓生組合、…物組合等の提灯が並んで居つた▲奉迎者は軍人はカーキ色の軍服で其他はフロツクコートにシルクハツトが大部分を占めて居つたが中には大禮服をつけた……老人……に……が朝鮮の小服に日本の紋付羽織のやうに三ツ紋五ツ紋を付して……用して居つたのは特に目立つて居つた▲當夜光を光彩を放つて居つたのは我社のイルミネーシヨンであつたらう。



●お康やかに……南大門驛御著の李王世子と出迎へられたる長谷川總督（下右）女官と内地婦人團（下左）朝鮮人側各團體

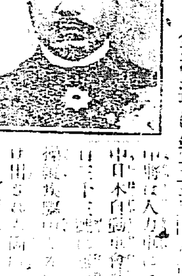
◎御滿足の態 に見受けられたり、草梁釜山鎭の各驛には内鮮人官民有志及び小學校生徒など

◎御微笑の裡 に懷舊綿な（……）下も四方八方の物語りに打興ぜられつゝ時々車内を左に右に行きつ戻りつ

◎栃内海軍次官遭難

自動車と衝突して重傷

＝全治迄に約三週間を要す＝



……十三日夜……海軍次官栃内曾次郎……中將は人力車にて……通過中日本自動車會社……第一千三……に……衝突……負傷……したる……全治迄には約三週間を要すべし（東京特電）

……世子殿下を奉迎……慶尚南道長官佐々木藤太郎氏は十三日午後九時入京久保滿鐵京城管理局長方に一泊したるが……旅行中なるが……日午後八時……分發……

……内務部長官は十……たり

◎新潟大雪崩後報

新潟縣南魚沼郡三俣村の大雪崩に就き……發掘作業は……一先づ終了し……埋沒家屋……發掘は……總數百七十六名にて内死者百五十一名生存者二十五名は何れも……負傷者……中なり（大阪特電）

◎詠進歌選定　選歌は十六日

新年宮中御歌會詠進歌は三萬一千五百餘首に達したるが其中異式のものを除き七千五百餘首につきて各寄人……選定中なるが十六日選歌決定すべしと（東京特電）

◎六十萬圓の詐欺　葡國人逮捕

上海にて六十萬圓を詐欺横領した葡萄牙人ジヨン、アンカルネイロは拘留中……下關……ホテルに來り……神戸長崎等へ遊び居りしが我司法……去……八日……

◎……地方法院……長崎……九日逮捕せり

◎柔道紛擾か……

……一部に……より……三十……日……は……名……投……

◎相撲紛擾か預り　大阪

……相撲は紛擾の極め遂に打揚げ迄預りとなれり（大阪特電）

◎鮮人教員……　西小門の大木……鮮人教員……を添へ鮮人……同民教師……にて……取計ひ方……に依頼し來れり

春場所大相撲

三日目　＝十三日午後九時著東京特電＝

勝

荒朝大國東矢△錦花御△若綾零△王岩釋○三大紅△對○千
見　見　筈　ノ西常△ケノ△ケ木迦ケ杉○ノ　葉△馬○薬ケ
王藤岬崎雲山洋△山山陸△川浦川△山嶽磯○高川△洋○崎

寄切り　渡し込み　押切り　押分け　寄切り　突出し　寄切り　無勝負　押切り　浴せ倒し　吊り出し　叩き込み　突出し　外掛け　下手投げ　渡し込み　突出し　掛け投げ　踏み越し　下手投げ　吊出し　捻り　寄切り　上手投げ　打遣り　突倒し

負

耕殿日友高國△全朝達△鶴若龍△小明石○宇敷△達△ノ訓○大
州ノ千ク　　　渡△　　ケ常△　　　都○　　ノ○ノ△門
誠△山浦總岩　龍錦緑錦△り島崎△陸　山○宮島△矢○濱岩

中入

大源大栃　鵬△八一○獅
潮氏山木錦　甲△　高○
　山　　柳△山湊△山○

後

兩大眞錦　藤△渦鬼○逆
國鳴砂　ノ△瀨鹿
　門石島　川△川毛○鉾

△四日目取組

駒泉——黒瀬川
九州山——大戸平
常ノ花——伊勢濱
鳳——宮城山
鶴渡——若八甲
朝……——……
鬼鹿毛——……
小常陸——……
三杉磯——大戸平
駿泉——宮城山
錦島——伊勢ノ矢
兩國——達ノ矢
紅葉川——宮城山
常ノ花——大戸平
大鳴門——伊勢濱
對馬洋——達ノ矢

中入

鳳——九州山
……——若木山
藤ノ川——……
……——……
大潮——栃木山
黒瀬川——大錦
……——鉾
……——大門岩

後

逆鉾——眞砂石
……

▲石山休場　石山は二日目龍ケ崎と立合ひの際右の臉に負傷せるため休場を申し出でたり（手捌き欄外にあり）

櫻御殿

第百二十回　大阪　霞の家主人

編笠浪人(十四)

利右衛門は夜が明けても戻らなかつた

桐島は門口を出て見、入つて見して、心配の胸を抱いて居た、父の手に掛けた死人の噂はいつも夜が明けると傳はつて來る、その度に小さい胸を抱いたことが幾度あつたか知れない、父の身に報つて、却て其手の手に掛つたのだつたら、その噂が聞こえたのだつたら、…なくてはならぬと思つて、道行く人々、近所の人の話に耳を傾けたが、さうした恐しい噂は聞こえなかつた

それで漸と安心はしたものゝ存命で居たら歸りさうなものである或は自分のした事が氣にさはつて遠方へお越しなされたのではないか、との疑念も起る

『お父さまは何うなすつたでせう、こんなに便りの聞こえない事は一度もございません』

主膳主従に向つては詫つ、宗之助も主膳も、斯うした桐島の難儀を見捨置いて出發するには忍びなかつた、日は暮れる、足は痛む、今夜の宿を何うしようと思ひ惱んで居る處へ、折好く桐島の親切に出逢つて、この茅屋へ伴はれた時の嬉しさを考へると、今朝になつたからと云つて、素知らぬ面で立ち去るのは人情でないやうな、切ては父の消息が分るまで、相談相手になつて遣らうと思つて、可能るだけの心切をした

桐島はそれがまた身に沁々と嬉しい

『もしもの事があつたのなら、人の噂に分りさうなものである、命があつたら歸りさうなものである。それが今日の今になつても消息がない、あゝ、お父さんは何うなされた、その悲な中にも、主膳主従がどれほど力に賴まれたかも知れない』

『何よりもまづ食事の用意を致さねばなりません、桐島どのはうみ〳〵と張組へてばかりござる、其許もお胸が空いたでせうぞれ〳〵御飯の都合をして進せませう

のう』

宗之助は自分で米を買つて來て飯を炊く、桐島は昨夕の如く出つ入りつして、父の便を待つて居た

『桐島どの、お支度を爲されては何うぢや、ぜれほど心配しても、時節が來ねばお歸りにはならぬであらう、これへござれ〳〵』

宗之助は膳部まで出して云つた、桐島は太い息をほつと吐いて

『どうも有難うございます』

『その代り御馳走は何も無い、先刻米を買ひに行つた序、鹽鰯を買ふて參つた』

『何から何まで恐れ入ります』

斯う云つて膳につく、何方が主人かお客か分らなかつた

食事の間に、宗之助は斯う云た

『桐島どのは此の後を何うなさるお意ぢやの―』

『何うと申して、わたくしにも考へがつきません、今にも父が歸りましたら、よく御禮を致さうと存じます』

『御主人お歸りであらうか』

『命さへあれば歸らぬことはあるまいと存じます』

『それが今になつて便のないは、遠方へ仕官の道を探しに出でられたのではないか、見受けるところ一向乏しいお生活らしい、斯うして一度の御世話に相成るも、前世からの因縁で存じ申す、萬一御主人御歸宅が後れたら、何う遊ばす御所存かな』

『名残り惜しゆう存じますよ、外に仕方がございませぬ』

『さて〳〵不憫』と宗之助に主膳は始終…の方を振り向いて、主膳は路用の盤合を懷合んで

『人助けと申す、路用の御貸ぎ申しては何うあらう』と…もしい聲で云つた

錦繪

大阪　青霞生

○近來古代錦繪の鑑賞家が非常に殖えて一の流行を爲してゐる、錦繪の上に於て江戸繪錦繪と純繪畫とは又別個の趣味を有つてゐる、到底肉筆では見られない線の柔かい味や色彩の沈着きを版畫に於て見ることができる、歌麿豐國は曲線美の大家である、廣重は構圖と色彩に前人未拓の境地を開いてゐる、しかし彼れ等は何れも版繪に成功してゐるが肉筆では成功して居ない。

○版繪の成功は畫家一人の力に歸すことはできない、彫り師と刷り師の力をまたねばならぬ、歌麿や豐國の線の柔か味は多く彫り師の力である、彫り師をやかましく標識もしたが又彫り師からも標識されたらしい、廣重の繪の如きは刷り師の力の與つて甚だ大なるものがある、ボカシ刷りの如きは畫師は刷毛で撫でれば可いのであるに拘らず刷り師の手では薄い色を先きに濃い色まで同じ處を三度も刷らねばならぬのである、その外カラ刷りだとかキラ、刷りだとか刷り師の技術を要するものが甚だ多い。

○で版畫は全く綜合美術であつて演劇のやうなものである、幾人もの手によつて成り立つ藝術である、其處に肉筆の純繪畫とは又別趣味の豐かな面白味があるのである、人は云つたこの言葉を借りて建築美を『凍れる音樂』と西洋人は云つた、この言葉を借りて云へば版畫即ち日本の古代錦繪は凍れる演劇である。

錦繪鑑賞の流行は甚だ面白い事で且つ尤もな事である、西洋人は既に十數年も以前から日本の錦繪に眼をつけ歌麿や豐國廣重などの好いものはスッカリ買取つて持つて歸つて了つてゐる、今頃日本人の慌てるのは少し遲いけれども、慌てぬよりは保存の上に甚だ瑕しである、そんな譯で今では日本には錦繪の好いものは殆ど稀になつて了つてゐる、初代廣重の一服もので『猿橋夜景』『阿波の鳴門』『日本三景』などは數百圓の價になつてゐる、歌麿のスッキリしたもの一枚三百圓もすると云ふ事である、即ち居う日本に好いものである。

○江戸繪畫集に就ては…滑稽な失敗談や成功談もあるが他日に讓る

京日俳壇

…撰

松葉皆鍾路の風に吹かれ居り　同
松葉賣る眼に灯連ぬ清藻哉　同
松葉賣に夕闇迫る裏戸かな　同
松葉賣の素足に大き草鞋哉　柿背
松葉籠の中指へ居る市場哉　同
溜れ堆る松葉に落つる夕日哉　同
松葉賣夕日に髯を顯はせる　同
松葉賣の歸り荷は油徳利哉　同
松葉賣も門外の草に…　同
…の市場の…松葉賣　同
松葉賣を控へて待ち渡船哉　同
松葉賣の一隅を占む市場哉　同
松葉賣中橋閣の蓋に並び居る　同
松葉賣中の水嗅ぐ河を渡る哉　同

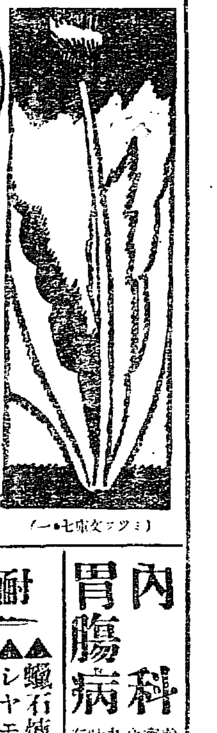
新刊紹介

△農村青年(新年號)八錢東京本鄉區…町青年會
△食物の養生(四の二)十五錢東京牛込市谷町七一ノ六食養新所
△書画骨董雜誌(新年特大號)二十錢東京芝區久保町一の三社
△育兒之友(父母の友)十五錢東京小石川區竹島町五七社
△帝國農會報(七の二)十二錢東京赤坂溜池町一丁目
△新國民(一月號)十五錢東京神田駿河臺袋町一六大日本國民中學會
△實生活(新年號)十二錢東京芝伊皿子町四三社
△水産界(四二四)二十五錢東京赤坂溜池町一日本水産會
△ミツワ文庫(一月號)十錢東京日本橋區…町四一五發行所
△ローマ字(一月號)二十錢東京麹町區有樂町一の三同ひろめ會
△拓殖新報(一月)二十五錢東京麹町區紺屋町四社
△錦東時報(四七)十八錢東京々橋區…町…社
△日本の實業(一の一)若槻禮次郎…尾、阪田、吉野、添田、三宅、寺尾諸博士の有益なる記事を載す(二十五錢東京府下巣鴨社)
△實業之世界(新年生活號)二十錢東京京橋區有樂町一の四社
△馬の趣味(新年號)三十錢大阪府下濱寺公園東濱寺馬術研究會
△陽(七二)十錢大阪府東成郡天王寺村大阪陽明學會
△臺灣教育(一八七)二〇錢臺灣總督府民政部學務部內同會
△現代の問屋(…)十錢東京…町一二四四　六大商店雜誌社
△新東洋(二の一)五〇錢東京麻布區市兵衞町二の二一其社
△論の友(新年號)二〇錢東京…田町三の九能率通信社
△鑛業之世界(新年號)二三錢東京…錦町一の一六二松堂書店
△實業法律(八五)七錢東京麹町紀尾井町三其社
△報知家庭の花　二錢東京市京橋區南傳馬町其社

畫とお化粧

畫の度胸とお化粧の度胸
繪絹は化粧の地膚に當る

市村羽左衛門談



少々畫を學びましたものですから、と云ひますと大層大きく聞こえますが、繪絹に向ふことを習ひましたものですから、一寸した掛物位を所望されました、樂屋なぞでも閑のあります時などは繪筆を持つことがございます畫を習ひ初めてから氣のつきましたことですが、畫とお化粧には根本で通ひ合つて居る處がございます。初めの間は繪筆を持ちますと妙に固くなりまして、繪がいぢけてしまひますものですから、御贔負の或方たちは市村君は舞臺度胸のある癖に繪には度胸がないなぞと忠告をして下さいましたが、此なぞでも相手なら相手を一つ手に入れますと度胸に据りが出來て來まして、描きながら自分の畫を觀て行く位の餘裕が出來て參ります。此はお化粧も同じことで自分の手に慣れたと云ふ覺がございませんと、手が堅くなりましたり平均に白粉をのばして行く段になつても思ひ通りのびないとか、襟白粉の濃い處と顔の白粉の薄い處が中々際立たない樣に往きにくいものですが、熟練して參りますと、高麗は少しも日に瘦せた顏が濃加減に往らうとも(?)ます時なぞも、お腹で思へば刷毛がひとりでに動く位になつて參りますから、お化粧もお腹が熟練が大切でございます。

儀のあります錦にお化粧をなさる樣におすゝめいたします。お稽古だと思つて居りますとそれこそ黒い草紙に手習をします樣なもので中々手の上るものではございませんから、矢張此のお正月に、お芝居へお出になりますとか歌牌を取りますとか羽根を突きますとかお友達をお訪ねしますとか云ふ折にお化粧をなさいますと、それこそ不携所でございますから、手がめき〳〵上つて參りまして、お化粧度胸が出來て參ります。それからお化粧の繪絹のよしあしでいくら腕が冴えて來ましても中々よく出來るものではございません、繪が強すぎますと思ふ樣な落ちつきに出來なかつたりしますことは私の樣な繪の初學者ばかりではなくて大家にもありがちの事だらうでございます。弘法は筆を選ばすなぞと申しますが、弘法樣だとて、いゝ筆ならもつといゝ畫がかけます筈で、畫に相應しい繪絹を選びますのが矢張大家の資格でございませう。畫の繪絹はお化粧にしますと、お化粧の土臺になります地肌でございます。地肌が整へられて居りませんと、手お繪しても中々美しい化粧は出來上るものではございませんから、皮膚の榮養を助けるミツワ石鹸を用ひて入浴し、皮膚の機能を鈍くします汚垢を落し、皮膚を清潔にしますと同時に、機能を健かにして置かなければなりません。さうしますと皮膚は清潔になり、いゝ色澤になります。此の清潔な皮膚へミツワ雪の手を擦込む樣にして置きますと、肌理細かになり潤澤を持ちまして白粉のなづみのいゝ皮膚になります。

△市村龜藏曰く　…若年には…顔に…身の狭い思ひをなさる方なぞは斯んな席には…

●最近鐵輸入額

依然米國より輸入

懸隔あり容易に妥協一致點を發見し難き事情ありしを以て一先づ我國よりの提案を撤回し同時に彼の造船計畫が豫定通りに遂行せらるゝとしても尙造船鐵材は寧ろ多きに苦しむか左なくとも不足を感ずる…

を了したる既約定品の九十四月間に入荷したるもの

▲約十萬噸內外に達しな…ものなきにあらず今或確なる筋の調査せる昨年十一月中の鐵類輸入價格と前年同月中の輸入價格との

▲前年同月より　にして昨年十一月には價格の著しく騰貴せる關係上輸入價額の著…

昨秋需要期に入るも商況振はず越年て一二月の閑散期に向ふと共に益々沈靜し居れる皮革類は當分活氣ある商狀を呈すると望み難きが…なり昨今は僅に前政府時代の註文品を小額宛製造し居るに過ぎず然るに內地製造業は工場の規模を擴張したれば市場は幾分品過剩を…內外より一圓七八十錢に漸落する前に至りたるが何分原料に於ては戰前に比し五六割方も昂騰せる關係上今日より以上の漸落は不可能なれば…四五六…

備後三原の西備銀行重役等二百萬圓背任事件孰れも豫審終結し有罪として公判に…(大阪特電)

内科　胃腸病

診察後九時迄

京城本町一丁目　石川醫院　電話[illegible]番

耐火煉瓦

▲蠟石煉瓦(三十番より三十四番)
▲シヤモツト煉瓦(三十番より三十四番)
▲ダイナス煉瓦　▲マグネシヤ煉瓦
▲耐火モルター其他耐火物各種

平壤府橋口町(電話壹貳五番)
合資會社　京谷商店

冷え性の人に欠かしてならぬ
美味滋養の純生粹葡萄酒
赤玉ポートワインは
不思議に体温を保つ
七大醫學博士の賞讃ご證明を有する葡萄酒

赤玉ポートワインは健胃、補血、興奮、強壯の效顯著なる點に於て現今の葡萄酒界唯一のものなる事は既に各大醫の證明に依つて明瞭にして、
虛弱　病後　神經衰弱　食慾不進　ヒステリー
産前　産後　營養不良　精力減退　疲勞衰弱
の人々が用ひて血を增し肉を肥し營養を佳良にし常に用ふれば心身を強壯にし老衰を防ぐ

健胃消化新劑
胃病によく効く
ゴルフ
高峰博士發見ノ有名ナル消化劑タカヂアスターゼヲ主藥トシ他ノ貴重胃藥數種ヲ配合ス

定價	
四十錠入	金貳拾錢
百錠入	金四拾錢
三百錠入	金壹圓

發賣元　東京市日本橋區室町三丁目十番地　泰昌製藥株式會社

阿波共同汽船　仁川出帆

芝罘、大連行　共同丸　一月十六日午後入港　一月十八日前十一時出帆
(朝鮮鐵道主要驛にて各行定期船接續旅客貨物取扱)
本町四丁目　阿波共同汽船株式會社
仁川代理店　野口商會(電話一七三番)
元山代理店　田口回漕部(電話二四四七番)
京城取次店　河村運送店

富の道しるべ

價十五錢　郵稅二錢
山縣五十雄　村上…著
京城太平通　京城日報社代理部　振替二一〇〇番

大阪商船株式會社汽船出帆廣告

仁川出帆
●神戶大阪行(釜山寄港)　×大智丸　一月十四日　午后五時出
●木浦、釜山、巖原、鎭ノ海、…行　×安東丸　一月廿五日　後二時出　×安東丸　一月十三日　後二時出
●大連行　安東丸　一月廿一日　正午出　安東丸　二月七日　正午出
濟南行　…州丸　一月十…日　…午出
元山出帆
●西湖津、新浦、城津、淸津行　宮島丸　一月　日　後十二時
●釜山、門司、宇品、神戶、大阪行　宮島丸　一月十七日　後九時出
大連出帆
●上海、基隆、打狗行　湖北丸　一月　日　前六時出　基隆丸　一月十四日　後四時出
內地各港出帆主要航路
●南米行　毎月一回
●濠洲行　毎月二回
●北米行　毎月二回
●孟買行　毎月一回
●南洋行　毎月一回
御注意　●外國航路(…)…　●…　大阪商船株式會社仁川支店　京城切符發賣所內國通運會社

朝鮮郵船　出帆

○元山より北鮮各港經由雄基行　咸鏡丸　一月　日　鏡城丸　一月　日　京畿丸　一月十三日　忠清丸　一月　日　元山發
×京城丸　忠清丸　咸鏡丸　一月十三日　一月十九日　釜山發
○大阪神戶行(釜山門司經由)　平安丸　一月　日　一月　日　元山發　釜山發
○元山より釜山經由門司行　第二高運丸　一月廿四日　京畿丸　一月十五日　元山發
○元山より江原道各港經由釜山門司行　咸鏡丸　一月　日　忠清丸　一月廿一日　元山發
○鬱陵島行(浦項及各地經由)　…德丸　一月　日　釜山發
○浦項行(長生浦方魚津甘浦九龍浦經由)　江陵丸　襄陽丸　毎日　釜山發
○濟州島行(長承浦…巨文島經由)　昌平丸　一月　日　釜山發
○濟州島行(西歸浦…)　西湖丸　慶興丸　一月　日　木浦發
○釜山、麗水間　海州丸　巨濟丸　統營丸　毎日　釜山發
○木浦麗水間(麗水にて釜山行接續)　順天丸　三日目毎ニ　木浦發
○木浦ヨリ多島海各島行　慶興丸　一月　日　木浦發
○仁川木浦行(群山其他各地經由)　晋州丸　金海丸　一月　日　仁川發
○仁川鎭南浦行(海州其他各地經由)　宗信丸　一月　日　仁川發
○海州行(江華島其他經由)　全州丸　毎日　南陽丸　休航　三十一日ハ休航　仁川發
○青島行(芝罘、大連經由)　江原丸　一月　日　仁川發
○淸津行(大阪神戶門司より)　平壤丸　一月十三日　元山發　釜山發